



Victor

DV

**DIGITAL VIDEO MOVIE
GR-DV1**

Mini **DV** Digital
Video
Cassette

取扱説明書

YU30071-126-4

ご使用前に

ご使用前に、この「安全上のご注意」と別紙の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

安全上のご注意

128～135ページの「必ずお読みください」もあわせてお読みください。

⚠ 警告 (人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です)

煙が出る、へんなにおいがする
ときなどは、バッテリーを
はずすか、電源プラグを抜く



内部に水や異物が入ったとき
は、バッテリーをはずすか、
電源プラグを抜く



落としたり、キャビネットが
壊れたときなどは、バッテ
リーをはずすか、電源プラグ
を抜く



電源コードが傷んだときは、
電源プラグを抜く



上記のようなことがあった場合

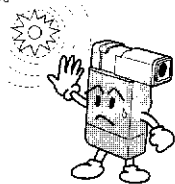
- 販売店に修理を依頼してください。
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

●お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

レンズやファインダーを太陽などの強い光源に向けない



- 目を損傷する原因になります。
- また、レンズやファインダーを太陽に向けたままにしておくと、集光により内部の部品が故障し、火災や感電の原因になります。



⚠ 注意 (人が障害を負う可能性、および物的損害のみの発生が想定される内容です)

持ち運ぶときは、付属のハンドストラップを使う **⚠**

- 誤って落とさないよう、ハンドストラップを手首に通してお使いください。
- ファインダーなどを持って運ぶと、故障したり、落としてけがをする原因となることがあります。

カセットカバー内部の金具に指をはさまれないようにする **⚠**

- はさまれて、けがをする原因になることがあります。
- 特にお子様にご注意ください。

不安定なところで三脚(別売)を使用しない **⊘**

- 倒れるとムービーが故障したり、けがをする原因となることがあります。

バッテリーやボタン電池について

⚠ 危険

分解や加熱、火に投下しない

- 発熱・破裂・発火により、火災やけがの原因となります。

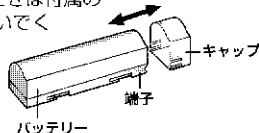
⚠ 警告

端子に金属類が触れないようにする

- ショートして、火災やけがの原因となることがあります。

●バッテリーを持ち運ぶときは付属のキャップで端子をふさいでく

ださい。キャップを紛失してしまった場合は、ビニール袋に包むなどして端子をふさいでください。



- ボタン電池をピンセットなどの金属物で絶対につままないでください。ショートして、火災やけがの原因となることがあります。

⚠ 注意



ボタン電池は幼児の手の届かないところに置く

- 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師と相談してください。

ご使用前に （じじき）

この「取扱説明書」は、保証書と一緒に保管し、必要なきにお読みください。

お買い上げいただき、ありがとうございます。

- 製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は製造番号が記載されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかを、お確かめください。
- 説明書にでてくるマークで、 は知っていると便利な操作や説明です。また  は正しくお使いいただくためのご注意です。

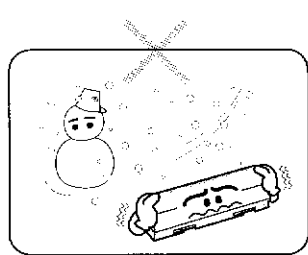
大切な録画の前に

- 大切な録画の場合は、必ず事前に試し撮りをし、正常に録画・録音されていることを確かめてください。
- 万一、ビデオムービーおよびテープ等の不具合により、正常に録画・録音や再生できなかった場合の、内容の補償についてはご容赦ください。
- 本機はDV方式のデジタルビデオムービーです。^{Mini} DV マークの付いたデジタルビデオカセットをご使用ください。
- 本機は、従来式のビデオ、およびDV方式以外のデジタルビデオとは互換性はありませんので、ご注意ください。
- あなたがビデオムービーで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。（なお、鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。）

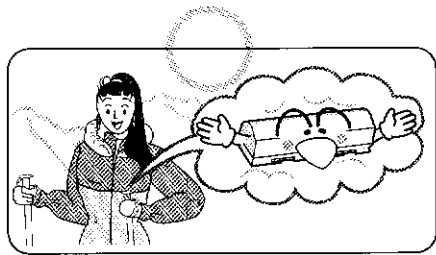
リチウムイオンバッテリー (BN-V712) の特性について

リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温(10℃以下)では、バッテリーの使用時間は短くなる特性があり、0℃以下では動作しないこともあります。このような時は、バッテリーをポケットに入れるなどして温かくし、撮影直前にムービーに取り付けてください。バッテリー自体が極度に冷えていなければ、ムービーの動作上問題ありません。(カイロなどをご使用になっている場合は、直接カイロがバッテリーに触れないようにご注意ください。)

または、別売のグリップバッテリーケースCU-V777のご使用をおすすめします。グリップバッテリーケースは、バッテリーBN-V712を2個使い、0℃の環境でもムービーを動作させることができます。



リチウムイオンは低温が苦手です。



- ・ポケットに入れて温めて使ってください。
- ・または、グリップバッテリーケースCU-V777を使ってください。

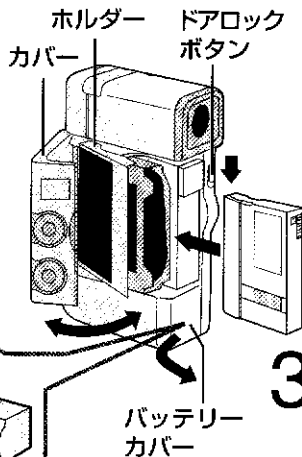
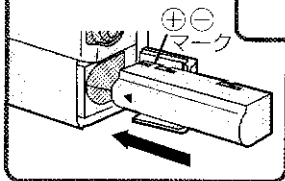
撮影したいに いますぐに

撮影の準備

1 充電済み バッテリーを 取り付ける

- 取り付けたら、バッテリーカバーを閉めてください。

バッテリーのキャップをはずし、バッテリーの ⊕ ⊖ マークと ◀ マークが奥になるように入れてください。



2 ドアロックボタンを 矢印方向にスライド させてから、カバー を開く

- カバーは止まるまで、確実に開けてください。
- 自動的に、ホルダーが開きます。

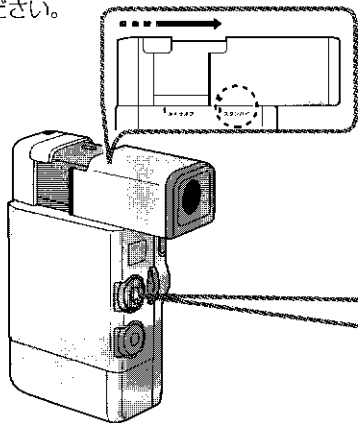
3 テープを入れ、ホルダー を閉め、ホルダーを収納 してからカバーを閉める

- ホルダーは閉めると、自動的に収納されます。収納が終わってからカバーを閉めてください。

撮る

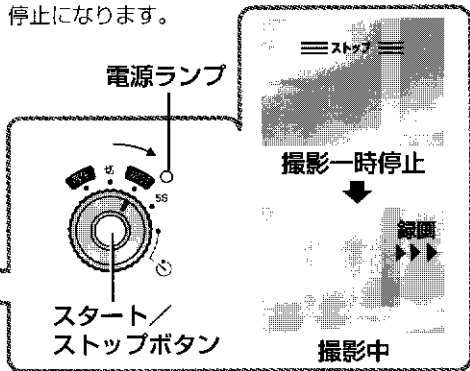
1 ファインダーを引き出す

- マークを「スタンバイ」に合わせてください。レンズカバーが開きます。
- ファインダーを引き出さないで、撮影側の電源が入りませんので、ご注意ください。



2 電源ダイヤルを「撮影」にし、スタート/ストップボタンを押す

- 電源ランプが点灯します。
- 撮影一時停止から、ピッ！と鳴り撮影を始めます。
- 撮影を中断するときには、スタート/ストップボタンを押してください。ピピッ！と鳴り、撮影一時停止になります。

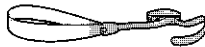


アクセサリ おもな

このムービーをご使用になる
には、別売キット（VU-
V75KIT）をお買い求めくだ
さい。

付属品

ハンドストラップ



ボタン電池 CR2025

- ・ムービー時計用
(取り付け済み)



別売キット (VU-V75KIT)

- 別売キットの内容は、このようになっています。
- 説明書内では、これらを使って説明しています。

映像/音声コード(φ3.5)

ムービー接続用
ミニプラグ▶ピンプラグ×3
長さ：約1.5m

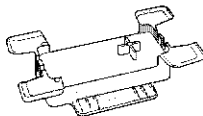


DCコード

長さ：約1.5m



ムービースタンド



映像/音声コード

ステーション接続用
ピンプラグ×3▶ピンプラグ×3
長さ：約1.5m



S映像コード

長さ：約1.5m



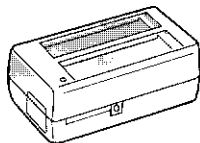
編集コード

長さ：約1.5m

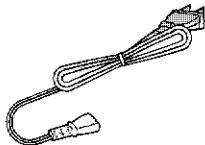


●取り扱い上のご注意については、VU-V75KITの説明書をご覧ください。

ACアダプター/チャージャー
AA-V70
(ACアダプター)



電源コード
長さ：約2m



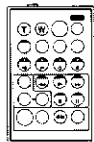
バッテリーパック
BN-V712
(バッテリー)



ボタン電池
CR2025
・リモコン用



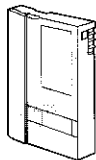
リモートコントロール
ユニット
RM-V708
(リモコン)



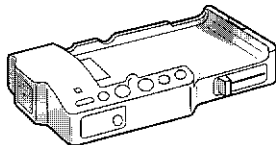
ソフトカメラケース



テープ
M-DV30ME
(DVM30タイプ)



ドッキングステーション
(ステーション)



準備	バッテリーを充電する	12
	バッテリーを取り付ける	14
基本	撮影をする	22
	記念写真のように撮る	26
応用	ピントを手動で合わせる	40
	明るさを調節する	42
	アイリスを固定する	44
	ホワイトバランスを合わせる	46
	撮影メニューの使い方	50
	ワイド効果をつける	53
	画面の揺れをおさえる	54
	ズーム倍率を設定する	55
	暗いところで撮影する	55
	システムメニューを設定する	56
	音声の設定をする	59
その他	ボタン電池を入れかえる	116
	日時を合わせる	118
	撮影時に日時を表示する	120
	こんなときは	122

室内でムービーを使う	15	使いやすくする	18
テープを入れる	16	フルオートとマニュアル撮影	20
ズームを使う	28	テープの途中から撮る	34
5秒撮りをする	30	再生する	36
セルフタイマー撮影をする	32	テレビで見る	39
シーンの設定をする	60	インサート編集	88
アラーム音の設定をする	61	再生メニューの使い方	90
風の音をカットする	61	再生音声を切りかえる	93
アニメ撮影をする	62	タイムコードを表示する	94
場面のつなぎに変化をつける(場面切替)	64	再生画面に日時を表示する	95
場面切替を入れかえる	72	再生画面のズーム/画面の移動	96
映像に変化をつける(演出効果)	74	再生画面の演出効果	98
演出効果を入れかえる	78	ダビングする	100
ステーションに取り付ける	80	メーカー設定をする	102
テレビ画面で再生する	82	場面を決めて編集する(自動編集)	104
アフレコ編集	86	より精度の高い編集をする!	112
必ずお読みください	128	技術解説	148
海外で使う	136	用語解説	150
各部のなまえ	138	保証とアフターサービス	154
主な仕様	146		

バッテリーを 充電する

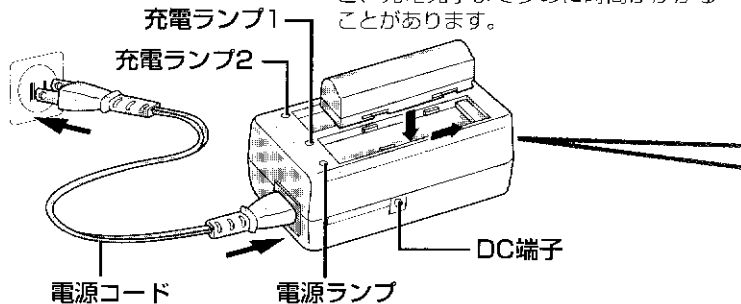
このバッテリーは、使いきって
なくても次の充電をすることが
できます。通常の1個のバッテリ
ー充電や、2個のバッテリーを連
続充電をしてください。

1 電源コードをACアダプター とコンセントにつなぐ

- 奥まで確実に差し込んでください。
- 電源ランプが点灯します。

2 バッテリーを取り付け部に差し込み、 カチッと音がするまでスライドさせる

- バッテリーのキャップをはずし、バッテリーの ⊕ ⊖ マークを下側にし、ACアダプターの ⊕ ⊖ マークと合わせて入れてください。
- 取り付けたバッテリーの取り付け部（1か2）の充電ランプが点滅し、充電を始めます。
- バッテリーを2個連続充電するときは、2個目も続けて取り付けてください。1個目の充電途中に2個目を取り付けると、充電完了まで多めに時間がかかることがあります。



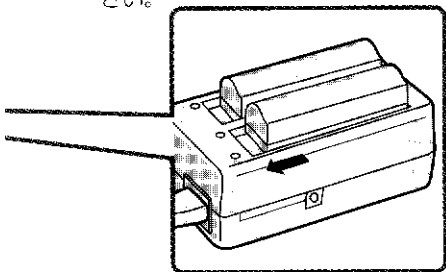
3 充電ランプが点滅から点灯に変わったら、充電完了です

- バッテリーを2個取り付けている場合は、2個同時に充電が終了します。

バッテリー	1個充電時間	2個充電時間
BN-V712	約140分	約210分

4 バッテリーを矢印方向にスライドさせ、はずす

- 使い終わったら、電源コードを抜いてください。



使用上の注意

- 充電中にDCコードを接続すると、ムービーへ電源が供給され、充電は中止されます。
- ムービーにバッテリーを取り付けたまま、長時間放置した場合は、バッテリーを充電しなおしてください。



充電時の温度について

充電は10～30℃での充電をおすすめします。低温（10℃以下）では、十分に充電されないことがあるので、ご注意ください。

上記の充電時間は20～25℃の場合における目安です。

連続撮影時間

約30分間です。これは、

- ・BN-V712を使って
- ・約20℃の場所で
- ・連続撮影を

おこなった場合です。しかし、

- ・低温（10℃以下）の場所での撮影
- ・ズーム、撮影一時停止などを繰り返す

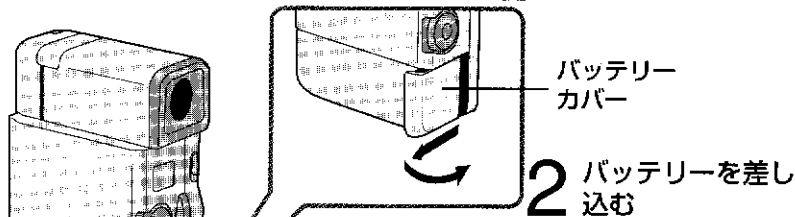
場合、撮影時間は短くなります。

撮影に出かける前に、充電したバッテリーを撮影時間の約3倍ぶん準備されることを、おすすめします。

室内でムービーを使う バッテリーを取り付ける

バッテリーを取り付ける

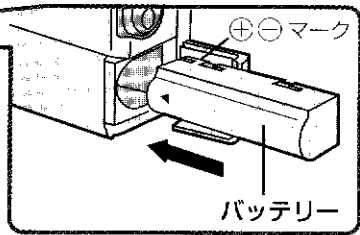
1 バッテリーカバーを矢印方向に少しずらし、開ける



●バッテリーのキャップをはずし、バッテリーの⊕⊖マークと、◀が奥になるように入れてください。

3 バッテリーカバーを閉める

●バッテリーをはずすときは、バッテリーカバーを開けて、取り出してください。



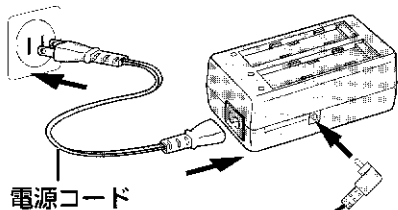
バッテリーは出荷時には充電されていません。ACアダプターで充電してからお使いください。

室内でムービーを使う

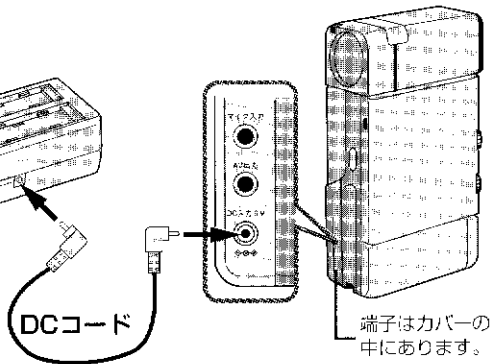
バッテリーを使わなくても、ご家庭のコンセントから直接電源を利用して、ムービーを動かすことができます。ACアダプターは変換プラグ（空港売店等で販売）を使えば、海外でも使用できます。

1 電源コードをACアダプターとコンセントにつなぐ

- 電源ランプが点灯します。

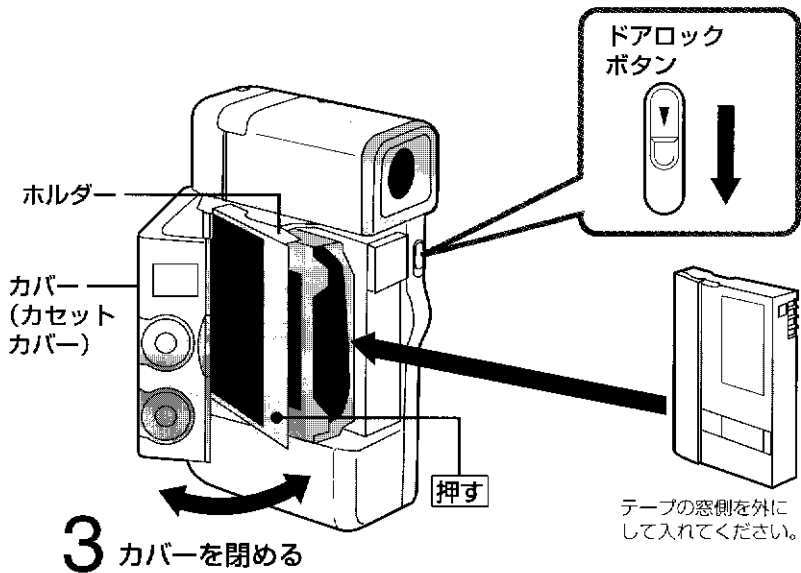


2 ACアダプターとムービーを接続する



テープを 入れる

充電済みバッテリーを付けて
いれば電源を入れなくてもホ
ルダーを開けることができます。



1 電源を取り付け、ドアロックボタンを矢印方向にスライドさせてからカバーを開く

- カバーは止まるところまで、確実に開けてください。自動的に、ホルダーが開きます。
- 内部の部品を直接手でさわらないでください。

2 テープを入れ、**押す**の部分を押して、ホルダーを閉める

- テープは奥まで確実に入れてください。
- ホルダーを閉めると、自動的に収納されます。収納が終わってからカバーを閉めてください。
- バッテリーの容量が少なくなっていると、ホルダーが開いても、収納できずカバーを閉めることができなくなります。むりに閉めるようなことは、絶対にしないで、充電済みバッテリーと交換してください。

使用テープ	使用時間
DVM30	約30分間撮ることができます。
DVM60	約60分間撮ることができます。



カバーを開くとき

- ホルダーが開くまでには、数秒かかります。そのときに、むりに開くようなことはせず、自動的に開くまで待ってください。
- 数秒待っても、ホルダーが開かないときは、カバーを開けてもう一度開いてください。
- ホルダーに指をはさまないように、ご注意ください。万一をはまったときは、数秒後に自動的にホルダーが開きます。
- ムービーを寒いところから急に暖かいところに移動したときは、しばらくおいてその環境になじませてから、カバーを開けてください。



大切な録画を誤って消さないために

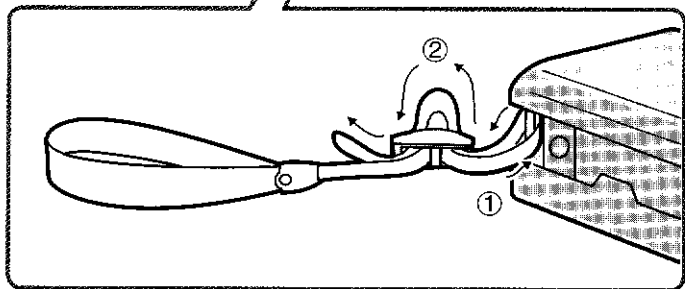
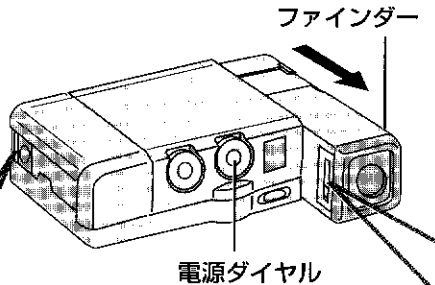


保存しておきたい録画済みテープは、テープ背面にあるツマミをSAVEの矢印方向に引いてください。再び録画したいときはツマミをRECの矢印方向に引き、もとの位置に戻してください。

使いやすく する

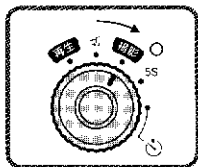
ハンドストラップを付ける

- 1 ハンドストラップを取り付け部に通し、取り付ける
- 2 ハンドストラップを引っぱる
 - 確実に付けられたか確認してください。



落下防止のため、必ずハンドストラップをお使いください。また、ファインダー内の画面が見やすいように、視度調節してください。

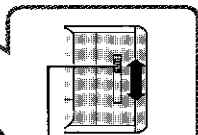
使う人の視力に合わせる



1 電源ダイヤルを
‘撮影’にする

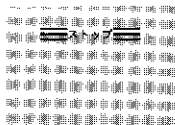
2 ファインダーを引
き出し、視度調節
レバーをスライドさ
せる

- ファインダー内の表示が見やすいように、視力に合わせて調節してください。

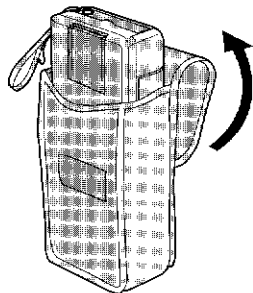


視度調節レバー

視力に合わせて、調節してください。



ソフトカメラケースに入れる



1 ムービーをソフトカメラケースに
入れる

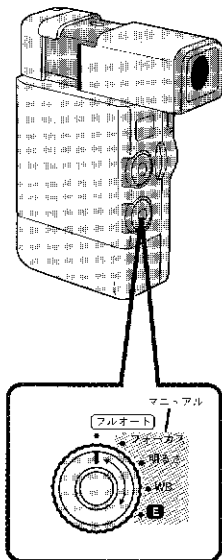
- ハンドストラップが上になるように、ムービーをファインダーから入れてください。

2 カバーを閉める

- ソフトカメラケースのベルト通しに、ズボンなどのベルトを通すと、持ち運びに便利です。

マニュアル撮影 フルオートと

撮影時は設定ダイヤルのポジションによって、いろいろな機能が楽しめます。



設定ダイヤル

機能	設定ダイヤルの位置	フルオート撮影 フルオート
記念写真 (26ページ)		○
シーン撮影 (60ページ) ※2		○※1
セルフタイマー (32ページ)		○
日時表示 (120ページ)		入
ピント (40ページ)		自動
手振れ補正 (54ページ)		入
明るさ補正 (42ページ)		自動
ホワイトバランス (46ページ)		自動
デジタルズーム (28ページ)		入 (20倍のみ)
演出効果 (74ページ)		× (働かない)
場面切替 (64ページ)		× (働かない)

※1 出荷時の設定は、5S'です。しかし、システムメニューで設定を変えれば、「フルオート」でも、5SD' アニメ' をすることができます。

マニュアル撮影			
フォーカス	明るさ	WB(ホワイトバランス)	E (効果)
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
入/切	入/切	入/切	入/切
自動/手動	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)
入/切	入/切	入/切	入/切
<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	自動/手動	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)
<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	自動/手動	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)
入/切	入/切	入/切	入/切
<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/>
<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/> (ただし、設定変更不可)	<input type="radio"/>

※2設定ダイヤルの位置にかかわらず、フルオート撮影になります。

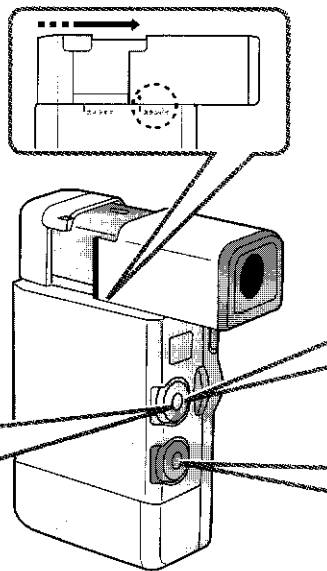
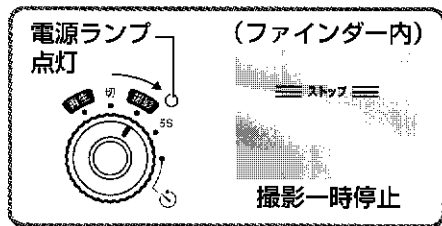
●撮影メニューで機能設定をするときは、設定ダイヤルを「マニュアル撮影」に合わせてください。

●印のついている機能は、示している設定ダイヤルの位置でのみ設定できます。

撮影をする

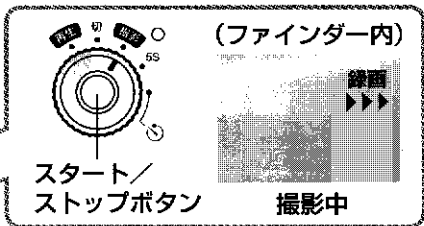
準備(10、17)をしてから撮影します。設定ダイヤル、フルオートは初級者向けです。まずは、フルオートで撮ってみましょう。

- 1 ファインダーを引き出す
 - ファインダーの外のマークを‘スタンバイ’に合わせてください。レンズカバーが開きます。
- 2 電源ダイヤルを‘撮影’にする
 - 電源ランプが点灯し、撮影一時停止になります。
 - ファインダーを引き出していないと、電源が入りませんので、ご注意ください。



4 スタート/ストップボタンを押す

- 撮影一時停止表示 ≡ストップ≡ が出来たら、スタート/ストップボタンを押してください。ピッ!と鳴り撮影を始めます。
- 撮影を中断するときは、スタート/ストップボタンを押してください。ピッ!と鳴り、撮影一時停止になります。



撮影をやめるときは…

ファインダーのマークを「カメラオフ」に合わせる電源ランプが消灯します。レンズカバーが閉まります。持ち運びのときなどは、この状態でおこなってください。

- 再び電源を入れるには、ファインダーを引き出してください。



電源が切れます

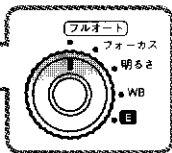
撮影一時停止を5分以上続けると節電のため電源が切れます。再び撮影するときは電源ダイヤルを一度「切」にしてから再び「撮影」にします。テープの出し入れや再生をしないかぎり、スタート/ストップボタンできれいにつなぎ撮りできます。



撮影を始めるときに

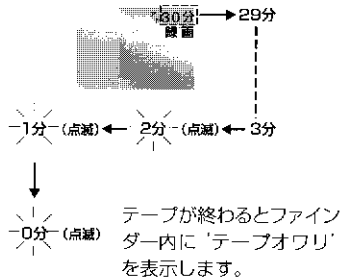
テープの無記録部分で撮影を始めると、スタート/ストップボタンを押してから撮影を始めると、約3～4秒かかります。撮影のチャンスをのがさないためにも、撮りたい時のすこし前から余裕をもってスタート/ストップボタンを押すことを、おすすめします。

3 設定ダイヤルを「フルオート」にする



テープ残量表示

撮影中は、自動的にファインダー内にテープの残り時間の目安を表示します。



日時表示について (118ページ)

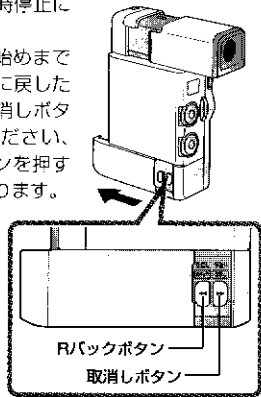
撮影するときに必ず日時は合わせておきましょう。撮影するときにファインダー内に日時を表示していなくても、再生するときに撮影したときの日時を表示することができます。

すぐに撮り直したいときは (レコバック機能)

撮影中失敗したなと思ったとき、1つ前の撮り始めまで戻ることができます。

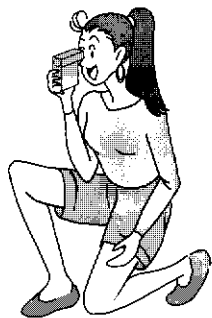
1 撮影をやめた後の、撮影一時停止の状態でもRバックボタンを押します。

- 1つ前の撮り始めまで戻り、撮影一時停止になります。
- 1つ前の撮り始めまで戻したが、元に戻したいときは、取消しボタンを押してください、Rバックボタンを押す前の位置に戻ります。



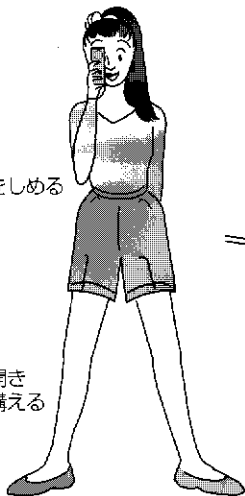
安定した撮影のためには姿勢が大切です。

ハンドストラップを手首に通す



低い位置の撮影

わきをしめる



足は少し開き
しっかり構える

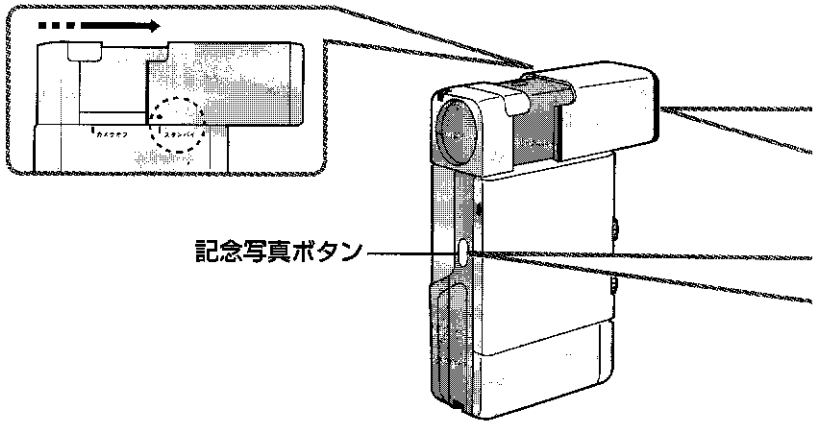
壁や柱によりかかり
安定させる



記念写真の ように撮る

記念写真のような効果を入れて撮影できます。
旅先などでお使いになると、風景や名所をスナップ感覚で残せます。

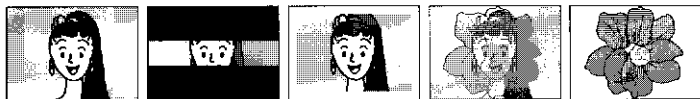
- 1 ファインダーを引き出す
- ファインダーの外のマークを「スタンバイ」に合わせてください。レンズカバーが開きます。



2 記念写真ボタンを押す

- ファインダーに「PHOTO」が表示され、白ワク付きの静止画像を約6秒間記録します。
- 撮影一時停止から使うと、静止画像を6秒間記録し、撮影一時停止になります。撮影中に使うと、静止画像を6秒間記録したあと、その静止画像から次の映像が、だんだん浮かび上がっていくように、オーバーラップ撮影し、通常の撮影になります。
- 音は通常の音声に「カシャッ」という効果音をあわせて記録します。

撮影中に記念写真ボタンを押したとき



撮影一時停止で記念写真ボタンを押したとき

記念写真の位置を探す (記念写真サーチ)

このムービーには、テープに記録されている記念写真部分を検出する機能がついています。(38ページ)

記念写真ボタンを押し続けると (連写)

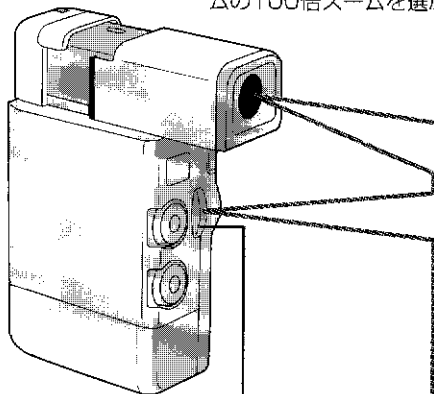
スナップ写真を連写したように、白ワク付きの静止画像を連写します。

ズームを使う

ズームレバーで被写体のズームアップ/ズームバックができます。

1 ズームレバーをTまたはW側にスライドする

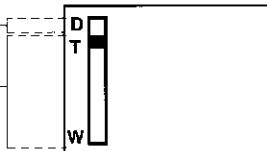
- 設定ダイヤルが‘フルオート’のときは、20倍ズームまで使えます。フルオート以外では光学ズーム10倍と、デジタルズームの100倍ズームを選ぶことができます。



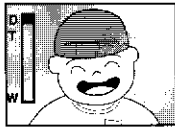
ズームレバー



ズームバック
(W: 広角)

デジタルズーム
ゾーン10倍ズーム
ゾーン

ズーム表示

ズームアップ
(T : 望遠)

20倍以外のズームを使う

ズーム倍率の設定は、10倍・20倍・100倍の3種類あります。20倍以外のズームを使いたいときは、撮影メニュー表示のズームパイロットで10倍か100倍を選んでください。(55ページ) 10倍以上のズームは、デジタルズーム(電気的に映像を処理したズーム)なので、10倍ズームより映像が劣化します。

ズーミングのスピードを変えるには

ズームレバーを軽く押すとゆっくり、強く押すと早くなります。

近づいて大きく撮る(マクロ撮影)

ズームを最広角側(W側)でレンズ前面から約10cmまで接写できます。被写体に近づき撮影したいものを画面の中央に入れてください。

デジタルズームが使えない

演出効果のゴースト(76ページ)を使っている時は、デジタルズームは使えません。

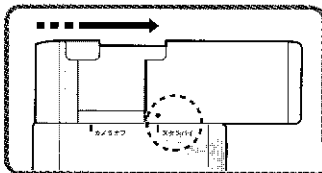
また、映像ワイプ/オーバーラップ(68ページ)や5SD(31ページ)で、映像を記憶している時は、デジタルズームは使えません。

5秒撮りをする

5秒撮りをする時、旅先などで風景や名所の記録を、5秒間ずつ映像と音声で残せません。テレビ、ビデオのようにはボタンがよへ、飽きのこない映像で撮影します。

1 ファインダーを引き出す

- ファインダーの外のマークを‘スタンバイ’に合わせてください。レンズカバーが開きます。

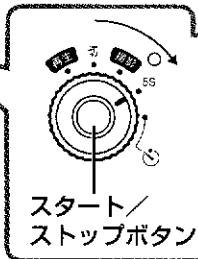
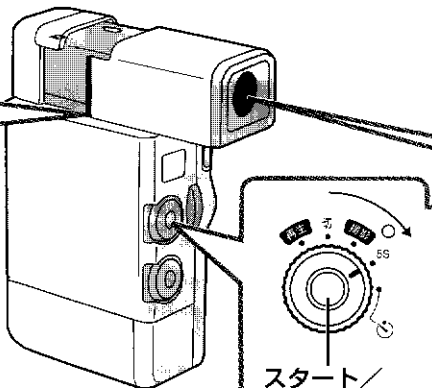


記念写真をあわせて使う

手順2でスタート/ストップボタンの代わりに、記念写真ボタンを押すと、通常の音声に‘カシャッ’という効果音をあわせて白ワク無しの静止画像を約6秒間記録します。

5秒撮りをするとき

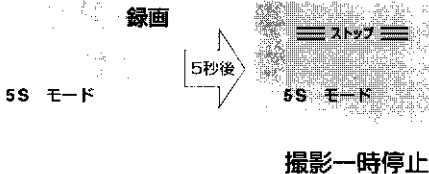
フルオート撮影になります。場面切替(64ページ)、演出効果(74ページ)やその他のマニュアル操作はできません。



スタート/
ストップボタン

2 電源ダイヤルを '5 S' にし、スタート/ストップボタンを押す

- ファインダー内に '5 S' が表示され、タリーランプが点灯して約 5 秒間の撮影をしたあと撮影一時停止になります。
- 5 秒以内にスタート/ストップボタンを押しても、撮影は停止しません。



5秒撮りをやめるときは…

撮影一時停止で電源ダイヤルを '撮影' か '切' にしてください。



5秒撮りでオーバーラップをする (5SD)

システムメニュー表示の 'シーン' で '5SD' を選んでいると (60ページ)、手順2でファインダー内に '5SD' を表示します。一度撮影をしてください。撮影ストップしたときの映像を記憶します。5分以内に次の撮影を始めると、記憶した映像から次の撮影の映像がだん

だん浮かび上がっていくように、約 2 秒間のオーバーラップ撮影をした後、5 秒間の撮影をします。電源が切れると、記憶した映像が消去されてしまうので、注意してください。

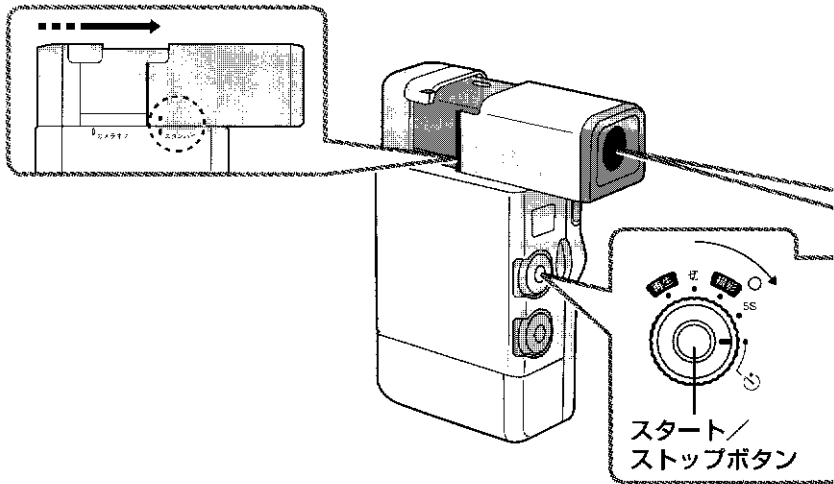


セルフタイマー 撮影をする

ムービーを固定して、撮影者も一緒に画面に入ることができません。これで、みんなが集めた映像を残せます。

1 ファインダーを引き出す

- ファインダーの外のマークを‘スタンバイ’に合わせてください。レンズカバーが開きます。

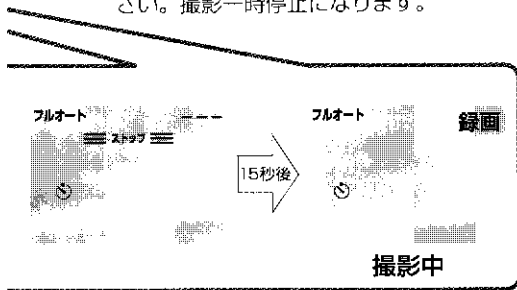


セルフタイマー撮影をやめるときは…

撮影一時停止で電源ダイヤルを‘撮影’か‘切’にする

2 電源ダイヤルを‘☺’にし、スタート/ストップボタンを押す

- ファインダー内に‘☺’が表示されます。
- スタート/ストップボタンを押すと、タリーランプが点滅を始めます。15秒後にタリーランプが点灯に変わり撮影を始めます。
- 撮影を一時中止したいときは、もう一度、スタート/ストップボタンを押してください。撮影一時停止になります。



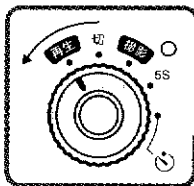
セルフタイマーと記念写真をあわせて使う

手順2でスタート/ストップボタンの代わりに、記念写真ボタンを押してください。15秒後に、通常の音声に‘カシャッ’という効果音をあわせて白ワク付きの静止画像を約6秒間撮影し撮影一時停止になります。

テープの途中 から撮る

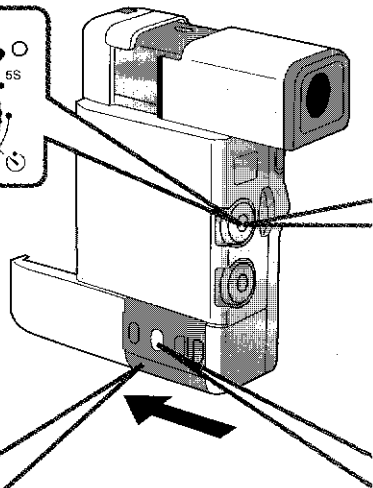
撮影途中のテープを取り出し
たり、再生したテープを使っ
て撮影するときに、おこなっ
てください。

- 1 電源ダイヤルを
'再生'にする



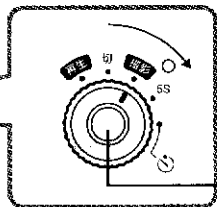
- 2 再生ボタンを押し、
巻戻しボタンか早送
りボタンを押す

●ファインダー内でテー
プの映像を見ることができ
ます。つなぎ撮りしたい
ところをさがしてくださ
い。



4 電源ダイヤルを‘撮影’にし、スタート/ストップボタンを押す

- 新たに撮影を始めます。



スタート/
ストップボタン

3 再生ボタンを2回押す

- 再生画が一時停止になります。



テープの途中から撮るとき

テープ途中の無記録部分から撮影すると、ムービーはおおよそのタイムコードを計算して記録します。そのため、そのテープで記念写真サーチ (38ページ) や自動編集 (104ページ) すると、誤動作することがあります。前の映像とつないで、次の撮影をおこなってください。しかし、前の映像とつないで撮影しても、テープによってはきちんとつながらないことがあります。

タイムコードとは

撮影時テープに「00:00:00」(分:秒:フレーム) から1コマ1コマ数字を記録していきます。そのため、再生時や編集時に、テープのどの位置に記録されているのかを、正確に把握することができます。タイムコードをリセットすることは、できません。

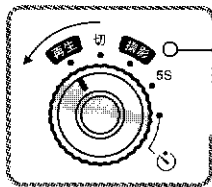
新品テープを使ったとき

テープの最初の位置では、ムービーがおおよそのタイムコードを計算するため、「00:00:00」から始まらないことがあります。

再生する

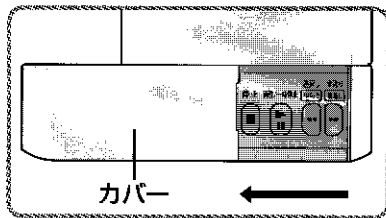
撮影した映像をファインダー内で見ることができます。

1 電源ダイヤルを '再生' にする



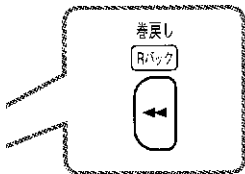
電源ランプ点灯

2 カバーを矢印方向に開ける



3 巻戻しボタンを押す

- テープの始めまで巻き戻すと、自動的に停止します。



4 再生ボタンを押す

- ファインダーを引き出すと、ファインダー内で見ることができます。



再生をやめるときは…

停止ボタンを押し、電源ダイヤルを‘切’にする




テープの早送り／巻戻し

停止ボタンを押してから、早送りボタンまたは巻戻しボタンを押します。テープの初めや終わりまで早送りや巻戻しをすると、自動的に停止します。

見たいところを早く探す (早送り／巻戻し再生)

- 再生中に早送りボタンまたは巻戻しボタンを押すと、高速で再生します。(約9倍速) 見たいシーンで再生ボタンを押してください。通常の再生になります。
- 指を離さずに、早送りボタンまたは巻戻しボタンを押し続けると、高速で再生します。見たい場面で指を離せば、通常の再生になります。
- 早送り／巻戻し再生中に出る画像は、多少モザイクのかかったような映像になります。
- 音声は出ません。



再生画を一時止めるには (静止画再生)

- 再生中に再生／一時停止ボタンを押します。再生に戻りたいときは再生／一時停止ボタンを押します。
- 一時停止を約3分以上続けると、自動的に再生が停止します。

再生するときに

ムービーを直接床の上などに横置きにして、長時間電源を入れたままにするとムービーの表面や、バッテリーが温かくなります。故障ではありません。できるだけ、ステーションか、ムービースタンドを使って再生することをおすすめします。

また、再生時はできるだけファインダーを収納してください。

いろいろな再生

別売キットのステーションとリモコンを使用すると、約1/10倍速のスロー再生／再生ズーム／演出効果などで再生画面を変化させて楽しむことができます。

記念写真ボタンを押すと(記念写真サーチ)

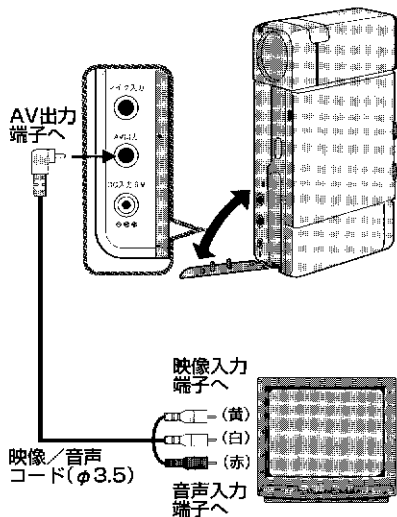
37ページの手順3の次に記念写真ボタンを押すと、テープに写した記念写真と、演出効果のストロボで撮影した位置を探することができます。ただし、テープの始めの位置で記念写真やストロボ撮影をしている場合や、記念写真と記念写真の間隔がせまいとき、連写をしているときは、撮影した正確な位置を探することができません。

- 記念写真サーチを途中でやめるときは、もう一度記念写真ボタンを押してください。
- 将来的に別売のプリンターを使えば、スナップ写真が出来あがります。ムービーとステーションを接続し、ステーションとプリンターを接続してください。

市販のソフトテープを再生したとき

本機で市販のコピーガード付きソフトテープは再生できません。映像と音声は出ず、画面はブルーバック(青い画面)になります。

テレビで見る

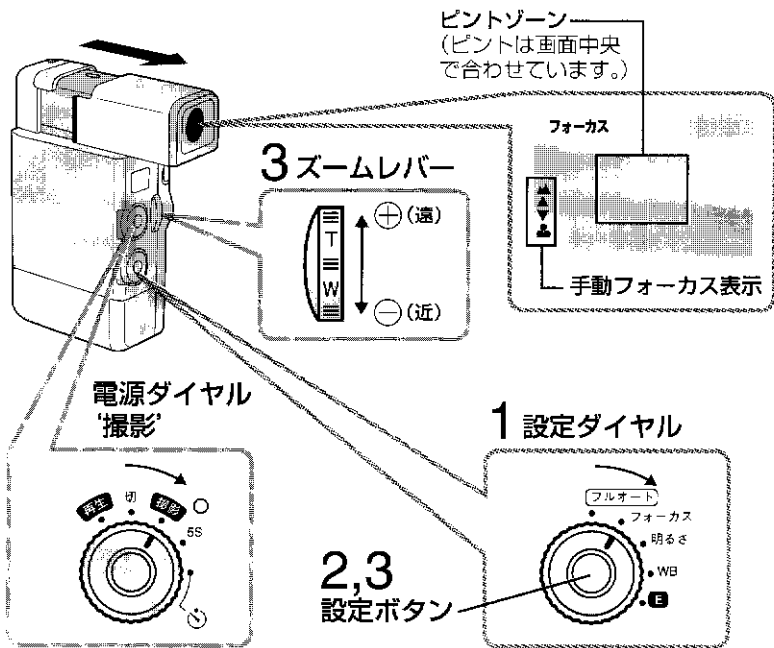


ムービーとテレビをつないで再生すると、ご家庭のテレビで見ることができます。

- 1 ムービーとテレビをつなぎ、電源を入れる
- 2 テレビの入力をムービーからつないだ端子に切りかえる
(例：ビデオ1、ビデオ2、ムービーなど)
- 3 テープを再生する
 - ムービーの電源は、バッテリーよりもACアダプターを使うことをおすすめします。
 - ムービースタンドに、ムービーを置いて再生することを、おすすめします。
 - カセットカバーが開いていると、テープ走行ボタンは働きません。必ず閉めておこなってください。
 - 再生時の表示をテレビ画面から消すとき(出すときは、日時設定メニューの「オンスクリーン」を切(入)にしてください。(121ページ)

プリントを手動で 合わせる

ほとんどの場合、自動で約10cmから無限遠までピントが合いますが、この10cmの場合や被写体が画面中央にないときなどは手動でピントを合わせなければなりません。



1 設定ダイヤルを 'フォーカス' にする

- ファインダー内に 'フォーカス' が表示されます。

2 設定ボタンを押す

- ファインダー内に手動フォーカス表示が出ます。
- ピントはこの状態で固定されます。

3 設定ボタンを押しながら、ズームレバーをスライドする

- +側にスライドすると遠い方に、-側にスライドすると近い方にピントを合わせていきます。調節の目安にしてください。
- ピントが最遠点、最至近点になるとファインダーの ▲ ● がそれぞれ点滅します。目安としてお使いください。

ピントを自動(オートフォーカス)にするには…

設定ボタンをポンと押す

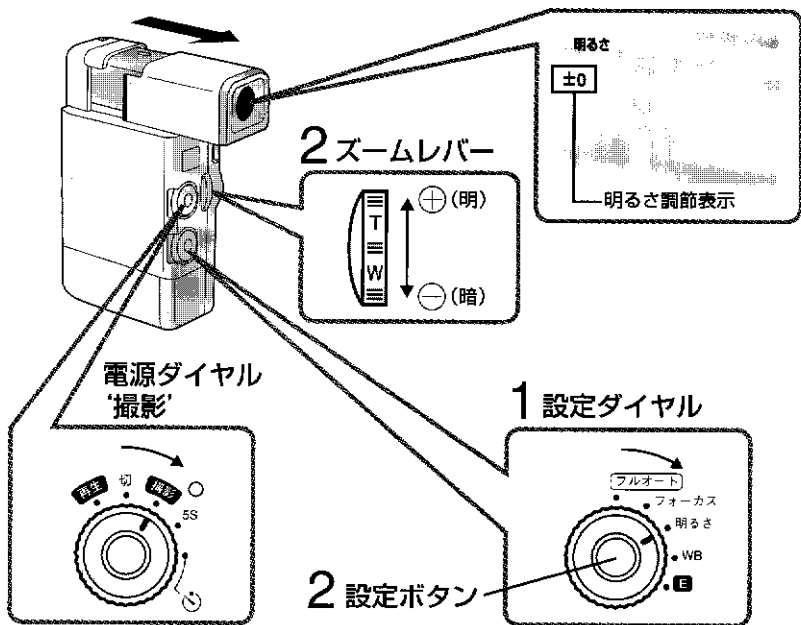
- 手動フォーカス表示 ▲ ● が消えます。
または、設定ダイヤルを 'フルオート' にする



手動でピントを合わせたほうがよい場合

- 平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るとき
- 金網などの障害物が被写体との間にある場合
- 暗い場所
- 細かい模様や、同じ模様が規則正しく並んでいる被写体
- 蛍光灯などのちらつきのある光源の下での撮影のとき

明るさを調節する



通常は、自動で合わせていますが、背景が明るすぎて被写体が暗くなるときや、背景に比べて被写体が明るすぎるときなどは、手動で明るさを合わせる必要があります。

1 設定ダイヤルを '明るさ' にする

- ファインダー内に '明るさ' が表示されます。

2 設定ボタンを押しながら、ズームレバーをスライドする

- ファインダー内に、明るさ調節表示が表示されます。
- 6~+6まで設定できます。+側にスライドすると明るく、-側にスライドすると暗くなります。調節の目安にしてください。

明るさを自動に戻すには…

設定ボタンをポンと押す

- 明るさ調節表示が消えます。

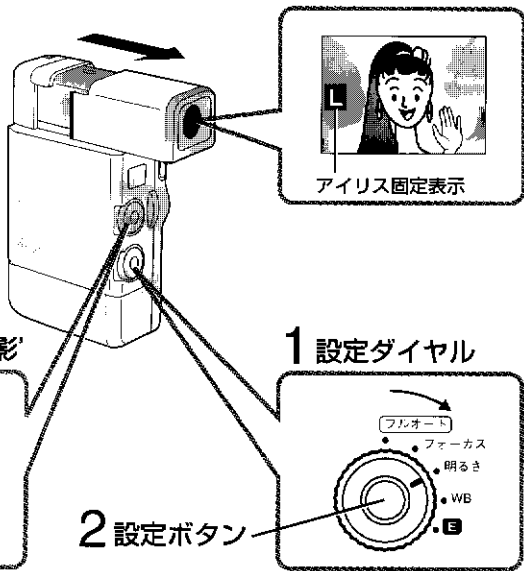
または、設定ダイヤルを 'フルオート' にする



手動で明るさ合わせをしたほうがよい場合

- 逆光のときや、スキー場や海辺で光の反射が強いときなど、背景が明るすぎて被写体が暗くなるとき
- スポットライトの中にいる人物を撮るときなど、背景に比べて被写体が明るすぎる時など

アイリスを 固定する



電源ダイヤル '撮影'

1 設定ダイヤル

2 設定ボタン

動きのある被写体や、ズーム操作などで、画面上に映る被写体の大きさが変わっても、被写体の明るさを一定にしたままお使いいただけます。

被写体が近くにいるときにアイリスを固定しておいてください。被写体が遠くに行っても、黒くつぶれてしまわないようにすることができます。

アイリスを自動に戻すには…

設定ボタンを押す

- 明るさ調節表示と **L** 表示が消えます。
または、設定ダイヤルを「フルオート」にする

1 設定ダイヤルを「明るさ」にする

- ファインダー内に「明るさ」が表示されます。

2 アイリスを固定したい被写体を画面いっぱいに写し、設定ボタンを約2秒押す

- ファインダー内に明るさ調節表示と、**L** が表示され、アイリスは固定されます。



アイリスを固定した方がよい場合

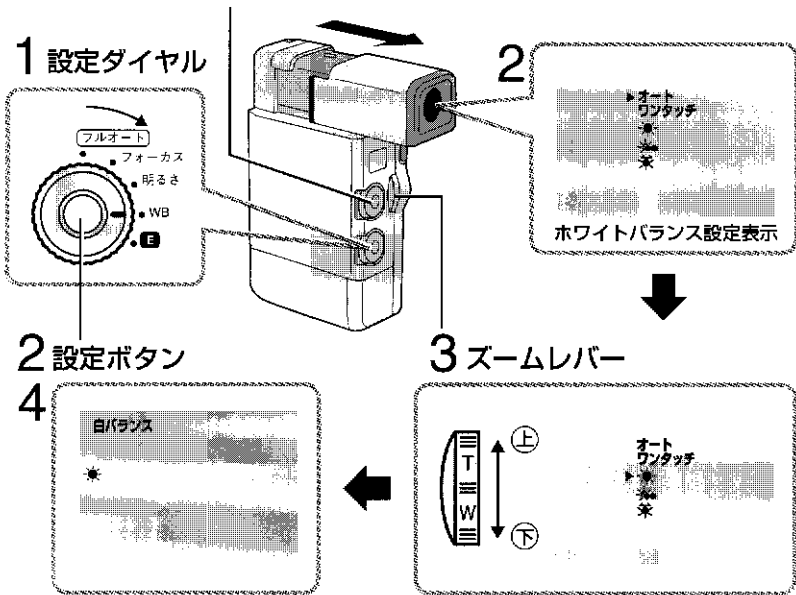
スキー場や海辺で光の反射が強いときや、スポットライトの中に入る人物を撮るときに、被写体が遠ざかっていくときや、ズームを使うとき。

明るさ調節とアイリスの固定

手順1のあと設定ボタンを押しながら、ズームレバーで明るさを調節したあと、手順2でアイリスを固定してください。お好みの明るさでアイリスを固定することができます。自動にするときは設定ボタンをポンと押してください。約2秒間押すと、アイリスのみ自動になります。

ホワイトバランスを 合わせる

電源ダイヤル '撮影'



通常の撮影では自動でホワイトバランスを合わせています。いろいろな種類の光源で撮影するときや、色合いを変えて映像を撮りたいときなどに、お使いください。

1 設定ダイヤルを 'WB' にする




- ファインダー内に '白バランス' が表示されます。

2 設定ボタンを押す

- ファインダー内にホワイトバランス設定表示が出ます。

3 ズームレバーで▶を項目に合わせる

- ←側にスライドさせると上に、→側にスライドさせると下に▶が移ります。

オート	自動でホワイトバランスを合わせます。通常はこの位置で
ワンタッチ	あらかじめ被写体に合わせて設定したホワイトバランス (48ページ) で撮影するとき
	晴れた日に屋外で撮影するとき
	くもり日や日陰で撮影するとき
	ビデオライトなどで照明するとき

4 設定ボタンを押す

- 設定終了となります。ファインダー内に選んだマークが表示されます。

ホワイトバランスを自動に戻すには…

設定ダイヤル 'WB' で、設定ボタンを押し 'オート' を選ぶ
または、設定ダイヤル 'フルオート' にする



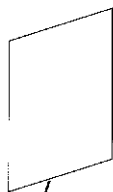
ホワイトバランスの設定が効かない

演出効果の 'セピア' '白黒' を使用しているとき設定は効きません。

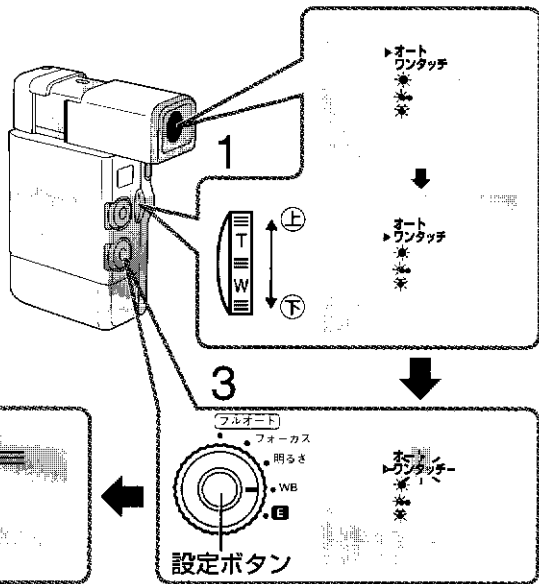


'ホワイトバランス' をセットするときはカラーテレビに接続して色合いを確認することをおすすめします。

ワンタッチを設定する



2 白い紙



ホワイトバランスを
合わせる(つづき)

ワンタッチはいろいろな光源の下の被写体を撮影するときあらかじめ設定してお使いください。

1 47ページの手順 1～3 をおこなう
●手順3で▶を 'ワンタッチ' に合わせてください。

2 被写体の前に白い紙を置き、画面
いっぱいに白を写す

3 設定ボタンを押し続け、'ワンタッチ'
が点滅したら手を離す
●撮影一時停止の画面になり、設定終了となります。
●ファインダー内に 'MWB' が表示されます。



ワンタッチを使うとき

室内では、いろいろな光源の下（外光、蛍光灯、ロウソクの光など）にいる被写体を写します。光によって色温度が違うので、同じ被写体を撮っても、写す位置によって色合いが違って写ってしまいます。それを自然に写したいときにお使いください。

ワンタッチでホワイトバランスを合わせると電源（バッテリー、ACアダプター）、ボタン電池をはずしても、設定したホワイトバランスを記憶しています。

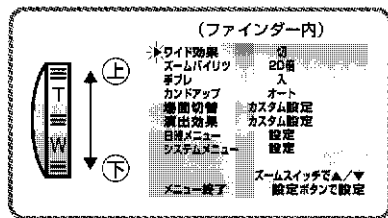
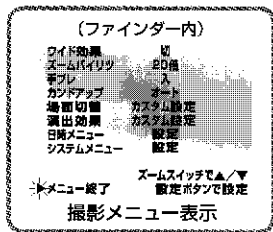
色紙でホワイトバランスを合わせる

ワンタッチの手順2で白い紙のかわりに色紙を置くと、色紙の色を基準にホワイトバランスを合わせるので、少し変わった色合いで撮影を楽しめます。

例えば、

- 赤い紙で合わせた場合 → 青緑がかった色、
- 青い紙で合わせた場合 → オレンジ色、
- 黄色い紙で合わせた場合 → 青紫がかった色に写ります。

撮影メニュー の使い方



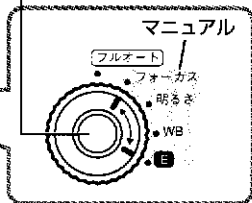
2 メニューボタン

3, 5
ズームレバー

4, 6, 7 設定ボタン

1 設定ダイヤル

電源ダイヤル
'撮影'



撮影メニューを使っていろいろな機能の設定をすることができます。

撮影メニュー表示で設定する機能には、ワイド効果・ズーム倍率・手振れ・感度アップ・場面切替・演出効果・日時メニュー・システムメニューの8種類があります。そのうち、ワイド効果・ズームバイリツ・手ブレ・カンドアップは、以下の手順でおこないます。

1 設定ダイヤルを 'マニュアル' にする

2 メニューボタンを押す

- ファインダー内に撮影メニュー表示が出ます。

3 ズームレバーをスライドする

- ▶を 'ワイド効果・ズームバイリツ・手ブレ・カンドアップ' のうちの、お好みの項目に合わせてください。+側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。

4 設定ボタンを押す

- ▶が点滅から点灯に変わり、変更したい項目が決定します。

5 ズームレバーをスライドする

- 選んだ項目の右側の表示が切りかわります。お好みの項目を選んでください。

6 設定ボタンを押す

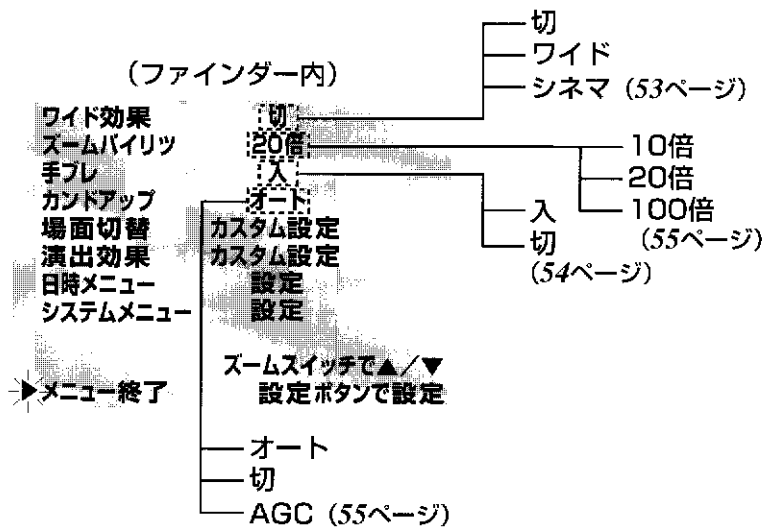
- ▶が 'メニュー終了' に移ります。
- 他に変えたい項目が有るときは、手順3～6を繰り返します。

7 もう一度、設定ボタンを押す

- 設定が終了し、撮影メニュー表示が消えます。

撮影メニューの使い方
(つづき)
ワイド効果をつける

撮影メニューの使い方 (つづき)



ワイド効果をつける

ワイドテレビ（画面比率16：9の横長テレビ）に対応した撮影モードです。
お使いになるワイドテレビの取扱説明書もお読みください。

ワイド	ワイドを選んで撮ると、ワイドテレビで被写体が横広がりにならずに、画面比率16：9の横長画面できれいに再生することができます。
シネマ	映像の上下に黒い帯を入れて、画面比率が4：3のテレビで16：9の横長画面で、映画のように写すことができます。 ●演出効果のセピアや白黒を使うと、古い映画のような映像で写すことができます。
切	設定ダイヤル「フルオート」のときや、工場出荷時の設定はこの位置です。設定ダイヤル「マニュアル」でワイドやシネマをやめるときは選んでください。

ワイドやシネマの効果を出して撮影したい場合は、「撮影メニューの使い方51ページ」の手順3で「ワイド効果」を選んでください。

ワイド/シネマをつかって撮影すると

自動的に特殊な信号（識別信号）が記録されます。識別信号を自動判別する機能の付いたワイドテレビのS1またはS2端子とステーションのS端子をS映像コードで接続してください。再生時に自動的に映像が横方向に広がり、自然な感じで再生します。

●識別信号を判別する機能のないビデオデッキでは、ダビングしたテープを再生するときに、テレビ側で手動で切り替えてください。

- 識別信号を判別する機能のないワイドテレビでは手動で切り替えてください。
- ワイドで撮影すると、通常のテレビやファインダー画面で再生時、撮影時ともに縦長の映像になります。
- ワイドとシネマを混在させて撮ったテープを再生したときに、早送り／巻戻し再生中はワイドとシネマを判別することはできません。

画面の揺れをおさえる（手振れ補正）

ムービーを手で持って撮影していると、微妙な手のふるえのため、撮影した映像がブレて見づらい映像になることがあります。

入

アップで撮影するときなどに起こる比較的小さな画面の揺れを、自動的に補正します。設定ダイヤル「フルオート」のときや、工場出荷時の設定はこの位置です。
●ファインダー内に「手ブレ」が表示されます。

切

三脚を使ったり、ムービーを固定して撮影するときには手振れ補正を切ってください。動く被写体に合わせて必要のない手振れ補正をし、不自然な映像になってしまうことがあります。

設定を変えたい場合は、「撮影メニューの使い方(51ページ)」の手順3で「手ブレ」を選んで設定してください。



手振れを補正できないとき

- ・手振れが大きい場合や、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体の場合は、補正できないときがあります。
- ・演出効果や場面切替の機能によっては、手振れ補正が働かないものもあります。そのときは、ファインダー内の「手ブレ」が点滅します。手振れ補正できない機能は、演出効果の映画効果、ストロボ、高感度1、2（76、77ページ）と、場面切替の映像ワイプ/オーバーラップ（68ページ）で前の映像を記憶しているときです。

ズーム倍率を設定する

ズーム倍率の設定は、10倍・20倍・100倍の3種類あります。

10倍	10倍までのズームができます。電氣的に映像を処理しない光学ズームで、きれいに撮影します。
20倍	設定ダイヤル「フルオート」のときや、工場出荷時の設定はこの位置です。20倍までのズームができます。映像を電氣的に処理（デジタルズーム）し、より大きく撮影できます。
100倍	100倍までのズーム（デジタルズーム）ができます。

ズーム倍率の設定を変えたい場合は、「撮影メニューの使い方(51ページ)」の手順3で「ズームバイリツ」を選んで設定してください。

暗いところで撮影する

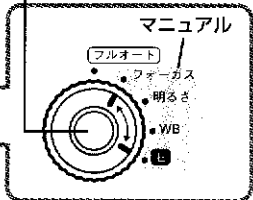
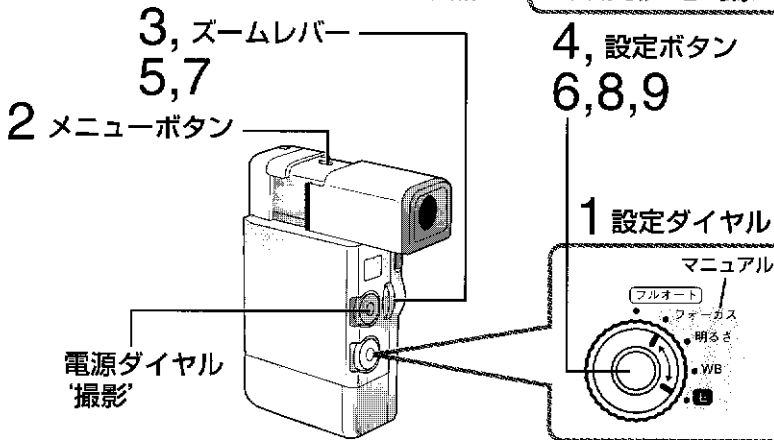
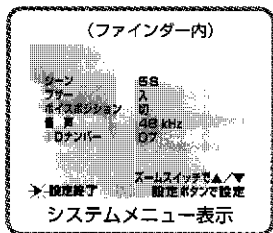
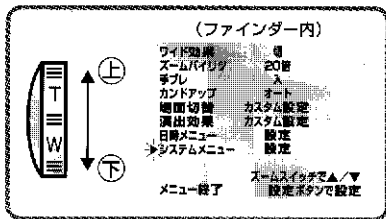
ムービーは比較的暗いところでも、実際よりも明るく撮影することができます。用途に応じて、オート・切・AGCの3種類からいずれかを選んでお使いください。

オート	設定ダイヤル「フルオート」のときや、工場出荷時の設定はこの位置です。シャッター自動可変（1/30～1/200秒）で撮影します。暗いところでの撮影では1/30秒シャッターとなりAGCよりも明るく撮れますが、被写体の動きは多少不自然になります。
切	暗いシーンをそのままの暗さで撮影しません。
AGC	画面に多少ザラザラ感がある映像ですが、暗いところで「オート」のように動きが不自然にならず、明るく撮ります。動きのある被写体を撮るときに。

設定を変えたい場合は、「撮影メニューの使い方(51ページ)」の手順3で「カンドアップ」を選んで設定してください。

システムメニュー を設定する

撮影メニューのなかのシステムメニューを使って、いろいろな機能の設定をすることができます。



システムメニュー表示で設定する機能には、シーン・ブザー・ボイスポジション・音声・IDナンバーの5種類があります。設定は、以下の手順でおこないます。

- 1 設定ダイヤルを 'マニュアル' にする**
- 2 メニューボタンを押す**
 - ファインダー内に撮影メニュー表示が出ます。
- 3 ズームレバーをスライドする**
 - ▶を 'システムメニュー' に合わせてください。+側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。
- 4 設定ボタンを押す**
 - ファインダー内にシステムメニュー表示が出ます。
- 5 ズームレバーをスライドする**
 - ▶を 'シーン・ブザー・ボイスポジション・音声・IDナンバー' のうちのお好みの項目に合わせてください。

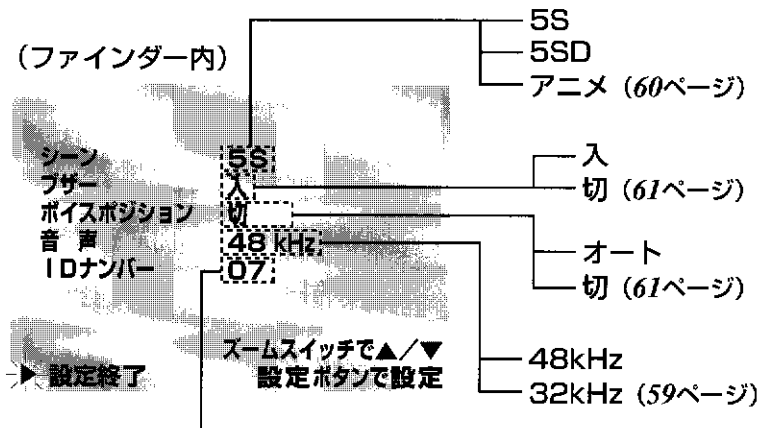
- 6 設定ボタンを押す**
 - ▶が点滅から点灯に変わり、変更したい項目が決定します。

- 7 ズームレバーをスライドする**
 - 選んだ項目の右側の表示が切りかわります。お好みの項目を選んでください。
 - 手順5で 'IDナンバー' を選んだときは、数字を入力します。+側にスライドさせると数が大きく、-側にスライドさせると数が小さくなります。

- 8 設定ボタンを押す**
 - ▶が '設定終了' に移ります。
 - 他に变えたい項目が有るときは、手順5～8を繰り返します。

- 9 設定ボタンを2回押す**
 - 設定が終了し、システムメニュー表示が消えます。

システムメニューを設定する (つづき)



将来的にパソコンにつないで、ムービーを動かしたりするためのものです。
00～99まで設定できます。(57ページ)

音声の設定をする

撮影時の音声設定にはサンプリング周波数が48kHzと32kHzの2種類があります。用途に応じて、いずれかをお使いください。

キロヘルツ 48kHz	音声は2つのチャンネルにステレオ音声で、録音することができます。 工場出荷時の設定はこの位置です。
キロヘルツ 32kHz	音声は4つのチャンネルにステレオ音声で、録音することができます。後でアフレコ編集をするときにおすすめします。

設定を変えたい場合は、「システムメニューを設定する (57ページ)」の手順5で「音声」を選んで設定してください。

応用



撮影時に記録される音声

48kHzの場合		32kHzの場合	
左 L	右 R	左 L1 L2	右 R1 R2

で印の付いているチャンネルに録音します。

シーンの設定をする（シーン撮影）

電源ダイヤル '5S' では、5S（5秒撮り）・5SD・アニメの3種類を使うことができます。用途に応じて、いずれかをお使いください。

5S	スタート/ストップボタンを押すことに、5秒間ずつ映像と音声で残せません。テレビドラマのようにテンポがよく、飽きのこない映像で撮影します。(30ページ) 工場出荷時の設定はこの位置です。
5SD	5秒間の撮影のあと、5分以内に次の撮影をおこなうと、約2秒間のオーバーラップ撮影をして、次の5秒間の撮影につなげます。(31ページ)
アニメ	スタート/ストップボタンを押すことに、約1/8秒間ずつ映像と音声で残せません。人形など、通常動かないものを繰り返し撮影すると、あたかも動いているように、見えます。(62ページ)

設定を変えたい場合は、『システムメニューを設定する（57ページ）』の手順5で 'シーン' を選んでください。

アラーム音(ブザー)の設定をする


ムービー操作をアラーム音でお知らせします。

入	設定ダイヤル「フルオート」のときや、工場出荷時の設定はこの位置です。電源の入/切・撮影のスタート/ストップをするときに音で知らせます。
切	アラーム音を出したくないときに。

アラーム音を切りたいときは、「システムメニューを設定する (57ページ)」の手順5で「ブザー」を選んで設定してください。

風の音をカットする(ボイスポジション)

用途に応じて、オート・切の2種類からいずれかを選んでお使いください。

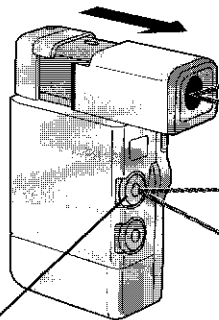
オート	風のある所で撮るときに、風による雑音を自動的に軽減して撮影します。 ・ファインダー内に  を表示します。 ・音質が変わりますが、故障ではありません。
切	設定ダイヤル「フルオート」のときや、工場出荷時の設定はこの位置です。風による雑音をカットせずに撮影します。

設定を変えたい場合は、「システムメニューを設定する (57ページ)」の手順5で「ボイスポジション」を選んでください。

アニメ撮影をする
風の音をカットする

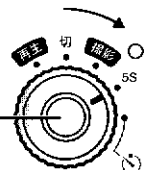
アニメ撮影をする

2 スタート/ストップ
ボタン



電源ダイヤル
'撮影'

1 電源ダイヤル



(ファインダー内)

録画

アニメモード

約1/8秒後

≡ ストップ ≡

アニメモード

人形など、通常動かないものをアニメ撮影すると、あたかも動いているように見えます。

出荷時は設定されていません。アニメ撮影をしたいときは、『システムメニューを設定する(57ページ)』の手順5~8で‘シーン’を選んで‘アニメ’を設定し、以下の手順でおこないます。

1 電源ダイヤルを‘5 S’にする

- ファインダー内に‘アニメ’が表示され、撮影一時停止になります。

2 スタート/ストップボタンを押す

- 約1/8秒間の撮影後、アニメ撮影一時停止になります。
- スタート/ストップボタンを繰り返し押し、撮影します。

アニメ撮影をやめるときは…

撮影一時停止のときに、電源ダイヤルを‘撮影’か‘切’にする



アニメ撮影をするとき

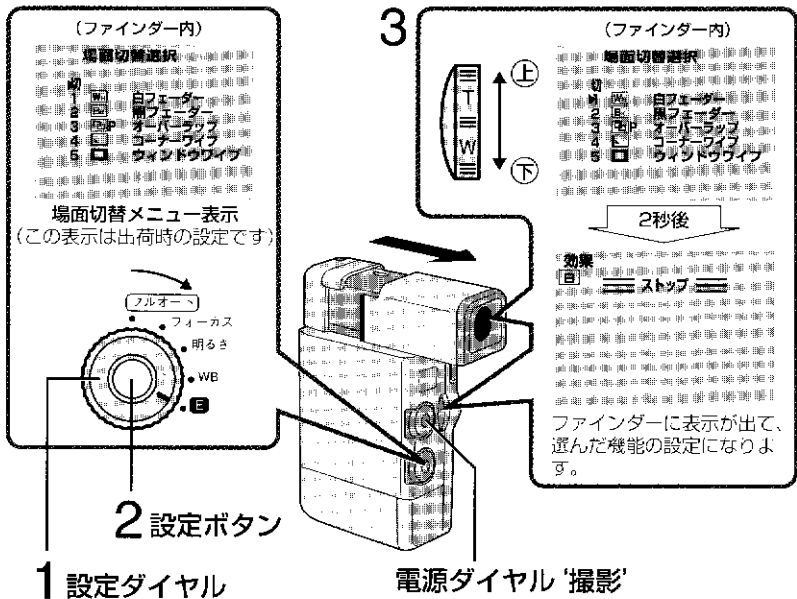
フルオート撮影になります。場面切替(64ページ)、演出効果(74ページ)や、その他のマニュアル操作はできません。

アニメ撮影を始めるとき

テープの無記録部分でアニメ撮影を始めると、約1秒間の撮影をし、次の撮影から1/8秒間の撮影をおこないます。

場面のつなぎに変化をつける(場面切替)

撮影中に、場面と場面のつなぎに変化をつけたいときにお使いください。



場面切替メニューの中から、お好みの効果を1つ選んでお使いになることができます。その他、18種類(67、70、71ページ)のなかから5つの効果をお好みのものを選び直すこともできます。(72、73ページ)

1 設定ダイヤルを「E」にする

- ファインダー内に「効果」が表示されます。

2 設定ボタンを押す

- ファインダー内に場面切替メニューが出ます。

3 ズームレバーで▶をお好みの機能に合わせる

- +側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。
- お好みの機能に▶を合わせると2秒後に場面切替メニューが消え、選んだ機能の設定になります。ファインダー内に選んだ機能の表示が出ます。

4 撮影するときはA B Cでそれぞれの手順をおこなう (66~71ページ)

場面切替をやめるには…

場面切替メニューで▶を「切」に合わせる



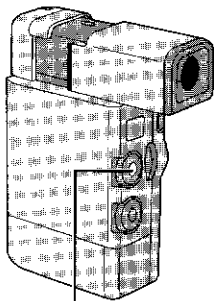
フェード状態の長さを変えるにはスタート/ストップボタンを押し続けている間はフェード/ワイプ状態がつづきます。

演出効果と一緒に使う

撮影時に演出効果を設定してあれば、いろいろな効果的な映像を、お楽しみいただけます。(一緒に使えない機能は表示が点滅します。)

場面をつなぎに変化
をつける(しじき)

A 黒や白の画面で場面切替

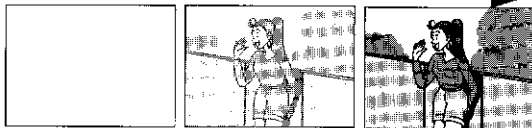


スタート/ストップ
ボタン

フェーダー

WH 白フェーダーの例です。

フェードイン



フェードアウト

ワイプ

▲ スクロールワイプの例です。

ワイプイン



ワイプアウト

白や黒の画面から映像が徐々に現われるフェード/ワイプイン、徐々に消えるフェード/ワイプアウト。
64,65ページの手順で選んでからお使いください。

1 スタート/ストップボタンを押す


- スタート/ストップボタンを押すごとに、フェード/ワイプインで撮影を始め、フェード/ワイプアウトで、撮影一時停止になります。


WH 白フェーダー
白い画面で、フェードイン/アウトします。


BK 黒フェーダー
黒い画面で、フェードイン/アウトします。


白黒 白黒フェーダー
白黒画面からカラー画面にフェードイン、カラー画面から白黒画面にフェードアウトします。


✕ モザイクフェーダー
全体にモザイクがかかった画面でフェードイン/アウトします。


 シャッターワイプ
黒い画面の中央から上下に、映像が徐々にワイプイン、上下から中央にワイプアウトします。

 スライドワイプ
黒い画面の右から左へ、映像が徐々にワイプイン、左から右へワイプアウトします。

 ドアワイプ
黒い画面から、映像が左右にドアを開けていくようにワイプイン、閉めていくようにワイプアウトします。

 コーナーワイプ
黒い画面の右上から左下へ、映像が徐々にワイプイン、左下から右上へワイプアウトします。

 ウィンドウワイプ
黒い画面の中心から、映像が徐々にワイプイン、画面底の中心へワイプアウトします。

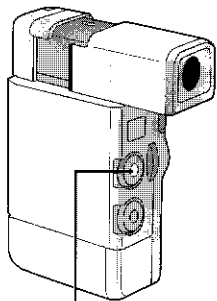
 スクロールワイプ
黒い画面から、映像が下から上へ徐々にワイプイン、上から下へワイプアウトします。

で印の付いている効果は、出荷時に設定されています。
それ以外の効果を使いたいときは、「場面切替を入れかえる (72ページ)」で設定してから、お使いください。

次ページへつづく

場面をつなぎに変化
をつげる(じじき)

B 映像ワイプ/オーバーラップ
(Pのつく場面切替)

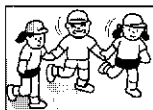
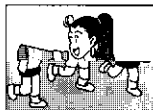


スタート/ストップ
ボタン

P スクロールワイプの例です。

最後の場面に、次に撮影した場面が徐々にワイプインします。

最後に撮影した場面



ワイプイン

テレビドラマや映画のように、前のシーンから次のシーンの切りかえを、映像を使って効果的にすることができます。映像ワイプは6種類、オーバーラップは1種類あります(70ページ)。64、65ページの手順で選んでからお使いください。場面切替メニュー以外の効果をお使いになりたいときは、「場面切替を入れかえる(72ページ)」で設定してください。



電源が切れると、最後に記憶した場面が消去されてしまうので、注意してください。

1 スタート/ストップボタンを押して撮影をする

2 スタート/ストップボタンを押し、撮影一時停止にする

●最後に撮影した場面を記憶します。

電源を切らずに
5分以内

3 スタート/ストップボタンを押して撮影をする

●手順2で記憶している場面からワイプインし、次の場面が始まります。



表示が点滅する

最後の場面の記憶が消去された場合、映像ワイプ/オーバーラップの表示が点滅します。1度撮影をおこなってください。最後に撮影した場面を記憶し、次の撮影から場面切替を始めます。

映像ワイプ/オーバーラップで最後に撮影した場面を記憶するときに、音声は記憶しません。



P スライドワイブ

最後の場面に、次に撮影した場面が、右から左へ徐々にワイブインします。



P ドアワイブ

最後の場面から、左右にドアを開けていくようにワイブインします。



P コーナーワイブ

最後の場面の右上から左下へ徐々にワイブインします。



P ウィンドウワイブ

最後の場面に、次に撮影した場面が、画面中心から徐々にワイブインします。



P スクロールワイブ

最後の場面に、次に撮影した場面が、下から上にワイブインします。



P シャッターワイブ

最後の場面に、次に撮影した場面が、中央から上下にワイブインします。

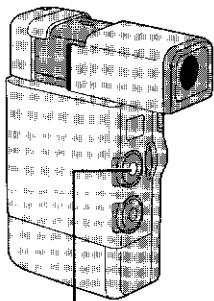


P オーバーラップ

最後の場面から次の撮影の映像がだんだん浮かび上がっていくようにワイブインします。

C ランダムで変化をつける

?R ランダム



スタート/ストップ
ボタン

?R を選ぶと、ムービーが自動的に選んだ効果を使って場面を切りかえていきます。67ページのフェーダーやワイブの中から選びます。出荷時には、設定されていません。お使いになりたいときは、「場面切替を入れかえる (72ページ)」で設定してから、お使いください。

1 スタート/ストップボタンを押す

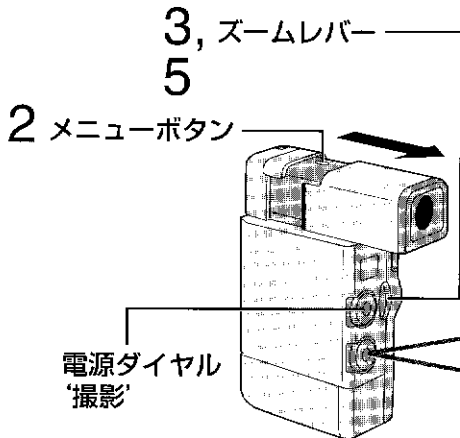
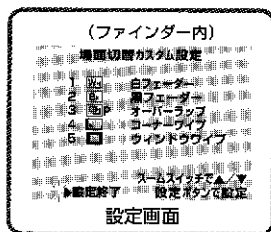
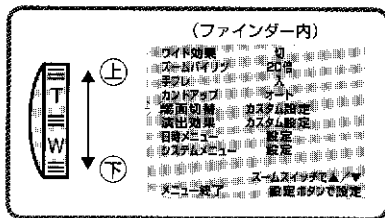


上のいずれかをムービーが選び、ファインダーには **?R** を表示します。

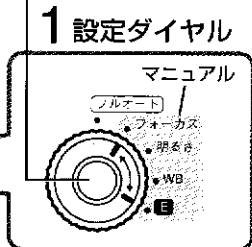
- 撮影と同時にフェードイン/ワイプインが始まります。
- 撮影中にスタート/ストップボタンを押すごとに、フェード/ワイプアウトで撮影一時停止に、フェード/ワイプインで撮影を始めます。

場面切替を 入れかえる

場面切替にある機能をお好きなものに5種類まで入れかえることができます。

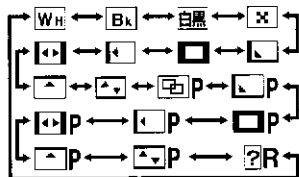


4, 設定ボタン
5, 6, 7



- 1 設定ダイヤルを 'マニュアル' にする
- 2 メニューボタンを押す
 - ファインダー内に撮影メニュー表示が出ます。
- 3 ズームレバーで▶を '場面切替' に合わせる
 - +側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。
- 4 設定ボタンを押す
 - ファインダー内に設定画面が表示されます。
- 5 ズームレバーで▶を入れかえたい番号に合わせ、設定ボタンを押す
 - ▶が点滅から点灯に変わります。

- 6 ズームレバーでお好みの機能に入れかえ、設定ボタンを押す
 - ▶が '設定終了' に移ります。
 - 他の番号も同じように入れかえることができます。手順5~6を繰り返してください。
 - ズームレバーで機能は下のように表示されていきます。



- 7 設定ボタンを2回押す
 - 設定が終了します。
 - 場面のつながぎに変化をつけて撮影してください。(64ページ)

映像に変化をつける (演出効果)

写している映像に変化をつけたいときにお使いください。

(ファインダー内)

演出効果選択

切	1/250	シャッター-1/250
1	🌃	夜景
2	📺	セピア
3	🖤	ブラック/ホワイト
4	🌟	映画効果

演出効果メニュー表示
(この表示は出荷時の設定です)

2 設定ボタン

1 設定ダイヤル

3

(ファインダー内)

演出効果選択

切	1/250	シャッター-1/250
1	🌃	夜景
2	📺	セピア
3	🖤	ブラック/ホワイト
4	🌟	映画効果

2秒後

効果

🖤 ≡ ストップ ≡

ファインダーに表示が出て、選んだ機能の設定になります。

電源ダイヤル '撮影'

演出効果メニューの中から、お好みの効果を1つ選んでお使いになることができます。その他、12種類のなかから5つの効果を選び直すこともできます。(78、79ページ)

演出効果をやめるには…

演出効果メニューで▶を‘切’に合わせる

- 1 設定ダイヤルを‘E’にする**
 - ファインダー内に‘効果’が表示されます。
- 2 設定ボタンを2回押す**
 - ファインダー内に演出効果メニューが出ます。
- 3 ズームレバーで▶をお好みの機能に合わせる**
 - +側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。
 - お好みの機能に▶を合わせると2秒後に演出効果メニューが消え、選んだ機能の設定になります。
 - ファインダー内に選んだ機能の表示が出ます。



場面切替と一緒に使う

撮影時に場面切替を設定してあれば、いろいろな効果的な映像を、お楽しみいただけます。(一緒に使えない機能は表示が点滅します。)

ブラック/ホワイトB/W

なつかしい白黒映画のように、映像が白黒に写ります。ワイド効果のシネマと合わせて使うと古い白黒映画の雰囲気をお楽しみいただけます。

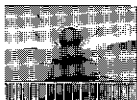
セピア

思い出の写真のように、映像が古い写真のようなセピア色で写します。ワイド効果のシネマと合わせて使うと古い映画の雰囲気をお楽しみいただけます。



映画効果

速いコマ落とし効果を出して写します。



夜景

夕日が沈むときなどの夜景を撮るとき、自然な感じで写せます。

●ピントが合わないときはピントを手動で合わせてください。(40ページ)



ゴースト

被写体が何重にも重なって写ります。幻想的なイメージです。

で印の付いている効果は、出荷時に設定されています。それ以外の効果を使いたいときは、「演出効果を入れかえる(78ページ)」で設定してから、お使いください。



ストロボ



コマ落としの効果で、連続写真のように写します。

高感度

暗くて写らなかったものも、明るく浮かび上がらせ、通常の撮影よりも、さらに明るくうつすことができます。

- ※1 高感度×4 : 約4倍明るくなります。
(1/15秒シャッター)
- ※2 高感度×10 : 約10倍明るくなります。
(1/8秒シャッター)

高感度をお使いのときは、

- コマ落としのような映像になります。
- 暗いところのみでお使いください。
- 手動フォーカス表示が出て、点滅することがあります。
- ピントが合わないときは手動で合わせ、三脚などで固定して撮影してください。

1/60,100,250,500シャッター



1/60秒シャッター、1/100秒シャッター、1/250秒シャッター、1/500秒シャッターのそれぞれで、固定して撮影します。

1/60 : NTSC方式の地域(日本、アメリカ他)の場合は、テレビ画面などを撮影するとテレビ画面に黒い帯が映ることがあります。1/60秒シャッターにすると、黒い帯は細くなります。

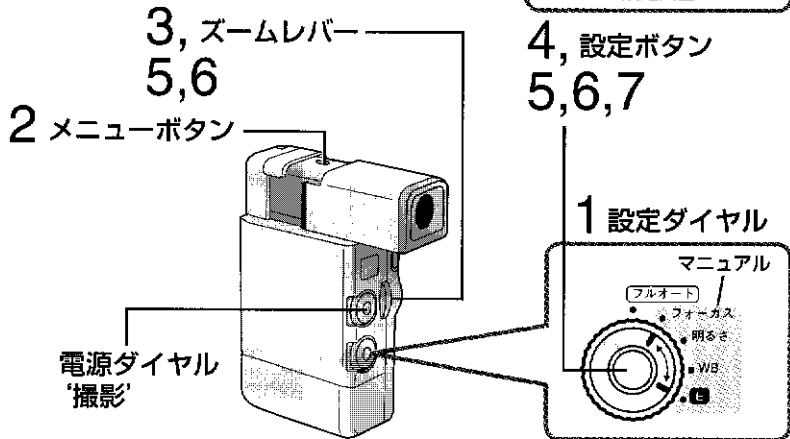
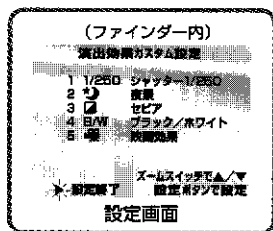
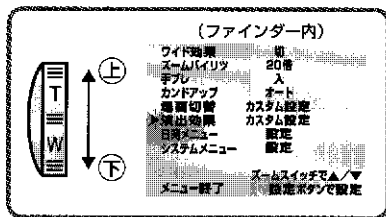
1/100 : 電源が50Hz(ヘルツ)地域の場合は、蛍光灯や水銀灯の光で撮影すると、画面がチラつくことがあります。1/100秒シャッターにすると、チラつきは少なくなります。

1/250,1/500 :

動きの速いものを1コマ1コマ鮮明に撮るので、後でスロー再生したときに、画面がブレたりせずきれいに再生できます。シャッタースピードは速くなるほど画面が暗くなります。できるだけ明るいところで撮影してください。

演出効果を 入れかえる

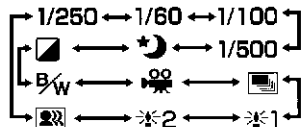
演出効果にある機能をお好きなものに5種類まで入れかえることができます。



- 1 設定ダイヤルを‘マニュアル’にする
- 2 メニューボタンを押す
 - ファインダー内に撮影メニュー表示が出ます。
- 3 ズームレバーで▶を‘演出効果’に合わせる
 - +側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。
- 4 設定ボタンを押す
 - ファインダー内に設定画面が表示されます。
- 5 ズームレバーで▶を入れかえたい番号に合わせ、設定ボタンを押す
 - ▶が点滅から点灯に変わります。

- 6 ズームレバーでお好みの機能に入れかえ、設定ボタンを押す

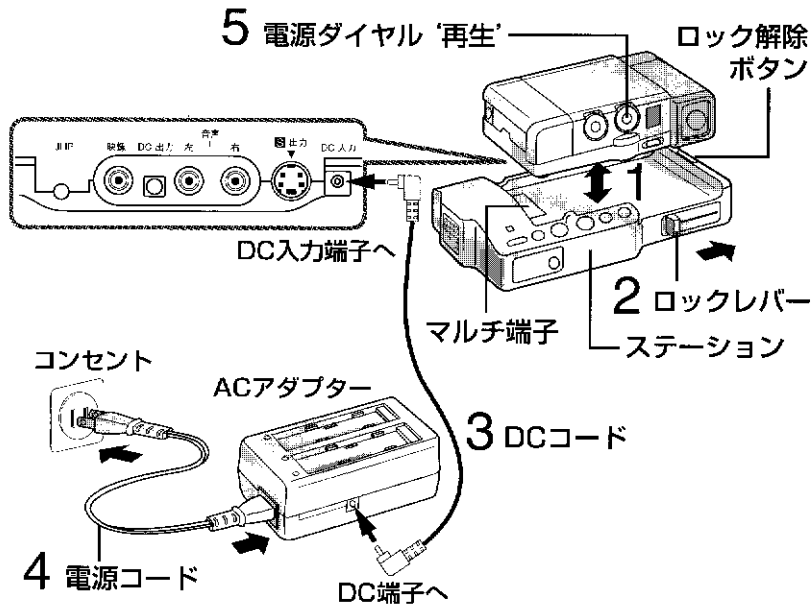
- ▶が‘設定終了’に移ります。
- 他の番号も同じように入れかえることができます。手順5~6を繰り返してください。
- ズームレバーで機能は下のように表示されていきます。



- 7 設定ボタンを2回押す
 - 設定が終了します。
 - 映像に変化をつけて撮影してください。(74ページ)

ステーションに 取り付ける

ステーション（別売キット）と接続すると、再生画面にいろいろな変化をつけて楽しむことができます。



1 ムービーをステーションの取り付け部に置く

- 電源ダイヤルを‘切’にしてから置いてください。
- メニューボタンを操作するときは、ファインダーを引き出してからステーションに取り付けてください。(90~95ページ)

2 ムービーを押さえながらロックレバーを矢印方向にスライドさせる

- ムービーとステーションが接続され、固定されます。
- ムービーを取りはずすときは、ロック解除ボタンを押してください。取り外すことができます。

3 ステーションとACアダプターを接続する

- ステーションはムービー内のバッテリーでは動きません。必ずACアダプターを接続してください。

4 電源コードをACアダプターとコンセントにつなぐ

5 電源ダイヤルを‘再生’にする



接続するとき

ムービーにDCコードや映像/音声コード(φ3.5)を付けたままステーションに取り付けしないでください。



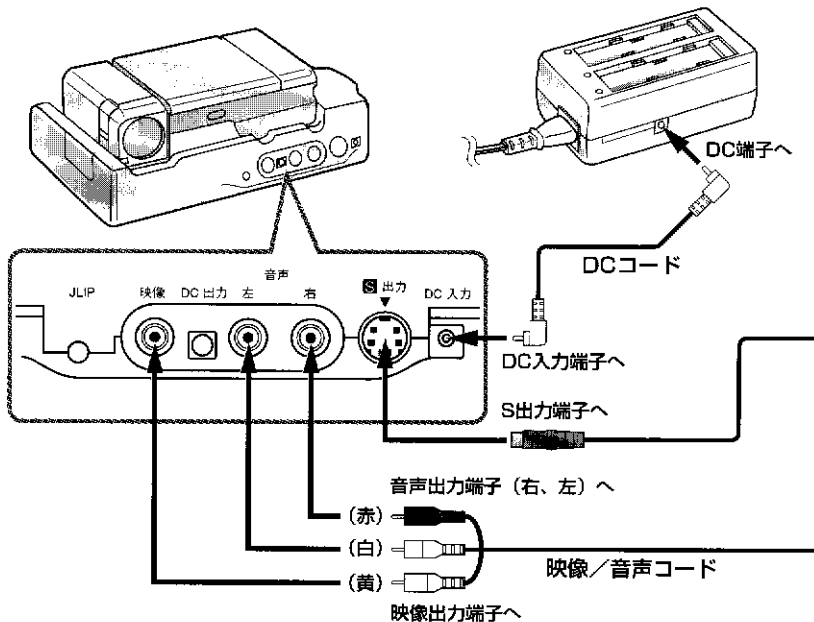
いろいろな再生

ステーションにムービーを取り付け、リモコンを使うと、通常再生のほか、約1/10倍速のスロー再生(85ページ)、再生ズーム(96ページ)／演出効果(98ページ)で再生画面を変化させて楽しむことができます。

本体内充電

ムービーにバッテリーを取り付けたまよステーションに接続すると、バッテリーを充電することができます。電源ダイヤル‘切’で、手順1~4をおこなってください。手順4で、ステーションの本体充電ランプが点滅し、充電を始めます。点滅から点灯に変わったら、充電完了です。フル充電までの充電時間の目安は、約170分です。ステーションに取り付けたまよ、バッテリーの着脱は絶対しないでください。

テレビ画面で 再生する



撮影した映像をムービーのファインダー内ではなく、ご家庭のテレビで再生して楽しむことができます。
ご家庭のテレビやビデオデッキの説明書もお読みください。

1 ムービーとステーションをつなぎ、ビデオデッキあるいはテレビにつなぐ

- デッキまたはテレビの音声入力端子がひとつのときは市販の変換プラグをつないでください。



テレビと接続したとき

- テレビが「ピー」「ウーン」というノイズ音を出すときは、マイクをテレビから離すか、テレビの音量をさげてください。
- 再生時の表示をテレビ画面から消すとき(出すときは、101ページをお読みください。

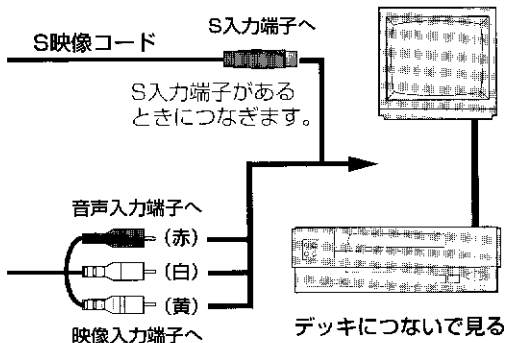
映像／音声入力端子のないテレビを見るには

別売のRFユニットRF-V5が必要です。音声はモノラルになります。DC出力端子はRFユニットの電源供給端子です。

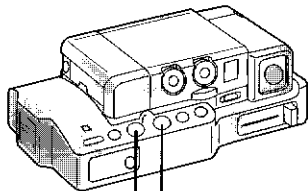
ステーションの電源は

ACアダプターをお使いください。ムービー内のバッテリーではステーションは動作しません。

AVテレビにつないで見る



ビデオデッキにつないだとき



停止ボタン

再生ボタン

- ムービーの電源ダイヤルを‘再生’にし、ビデオデッキの電源を入れる
- テレビを、ビデオを見るチャンネルにする
- ビデオデッキの入力を外部入力にする
 - ご家庭のビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。
- 再生ボタンを押す
 - テレビ画面で見ることができます。

テレビにつないだとき

- ムービーの電源ダイヤルを‘再生’にし、テレビの電源を入れる
- テレビの入力をムービーからつないだ端子に切りかえる
(例：ビデオ1、ビデオ2、ムービーなど)
- 再生ボタンを押す
●テレビ画面で見ることができます。

再生をやめるときは…

停止ボタンを押す



長時間使用しないときは、電源ダイヤルを‘切’にしてください。



S映像コードをつないだ映像がでない

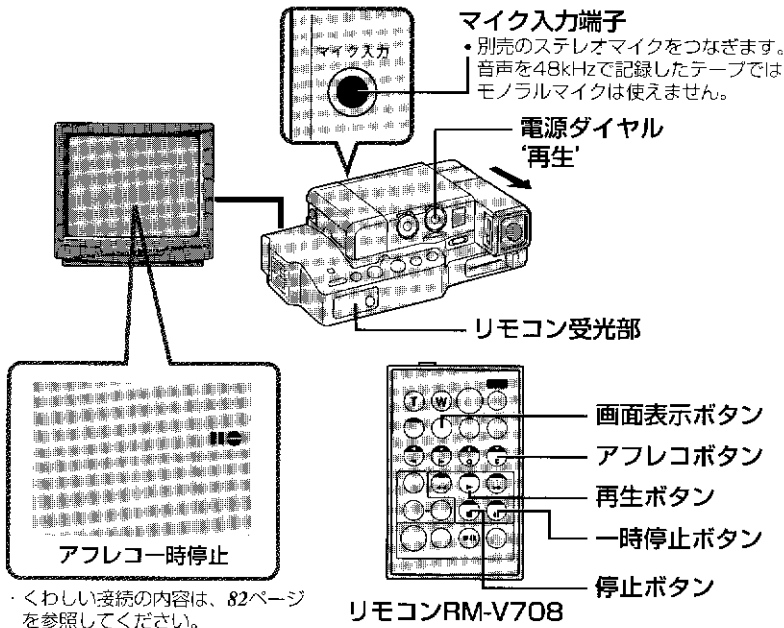
S映像コードでつないだビデオデッキのS端子と映像端子からの入力を切りかえるスイッチを操作してみてください。

スロー再生をする

テープ再生中にスロー再生をしたいところで、一時停止ボタンを押し、リモコンのスロー再生ボタンを、ステーションのリモコン受光部にむけて押してください。約20秒間スロー再生(約1/10倍速)したあと、通常再生に戻ります。スロー再生を途中でやめるには再生ボタンを押してください。スロー再生は、デジタル処理によっておこなっているため、多少モザイクのかかったような映像になることがあります。

アフレコ編集

録画済みテープの音声を入れかえることができます。



1 テープを再生し、編集を始める位置で一時停止ボタンを押す

- 静止画になります。

2 別売の外部マイクを接続し、リモコンのアフレコボタンを押したまま一時停止ボタンを押す

- ファインダーを引き出すと、ファインダー内にII●が出ます。
- 接続したテレビに表示を出すときは、リモコンの画面表示ボタンを押してください。

3 再生ボタンを押し、マイクに向かってナレーションなどを記録する

- 編集が始まります。
- 一時止めるには一時停止ボタンを押します。
- 48kHzで記録したテープにアフレコ編集したときは、左（L）チャンネルにアフレコ編集する前の音声、右（R）チャンネルにアフレコ編集したときの音声記録されます。また、32kHzで記録したテープにアフレコ編集したときは、左（L）と右（R）の両チャンネルにアフレコ編集する前の音声とアフレコ編集したときの音声別々に記録されます。

アフレコ編集をやめるときは… 停止ボタンを押す



アフレコ編集したテープを見ると

音声はリモコンの音声切替ボタンを押して聞きたいものを選んでください。

- 主音声はアフレコ編集する前の音声のことです。
- アフレコ音声はアフレコ編集したときの音声のことです。

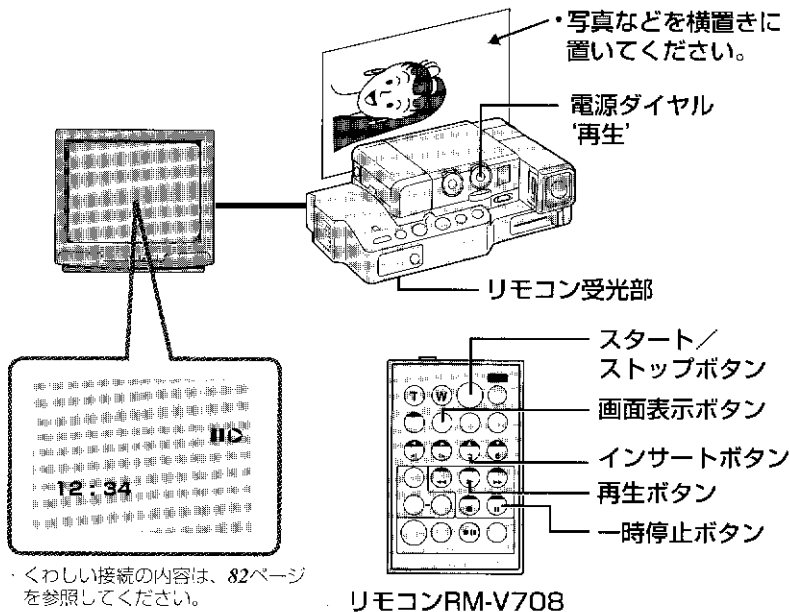
撮影時の音声	表示	出力音声
48kHz	フル音声	主音声（左）とアフレコ音声（右）が出力されず。
	音声1	主音声が左右から出力されます。
	音声2	アフレコ音声が左右から出力されます。
32kHz	フル音声	主音声とアフレコ音声が合成され、ステレオで出力されます。
	音声1	主音声がステレオで出力されます。
	音声2	アフレコ音声がステレオで出力されます。

アフレコ編集がきれいにできない

テープの無記録部や、48kHz/32kHzの切りかえ部分で、アフレコをすると、音声がみだれることがあります。ご注意ください。

インサート 編集

録画済みテープに写真などを
ムービーで撮って、フォトア
ルバムを作ることができます。



1 テープを再生し、編集を終える位置で一時停止ボタンを押す

- タイムコードを確認してください。
(94ページ)

2 編集を始める位置まで戻し一時停止ボタンを押す

- 静止画になります。

3 リモコンのインサートボタンを押したまま一時停止ボタンを押す

- ファインダー内に「**II**」と、タイムコード(分：秒)が出ます。
- 接続したテレビに表示を出すときは、リモコンの画面表示ボタンを押してください。

4 スタート/ストップボタンを押し、インサートしたい映像を撮る

- 編集が始まります。
- 一時止めるにはスタート/ストップボタンを押します。
- 手順1で確認したタイムコードの位置でインサートを終了してください。

インサート編集をやめるには…

スタート/ストップボタンを押し、停止ボタンを押す



インサートすると

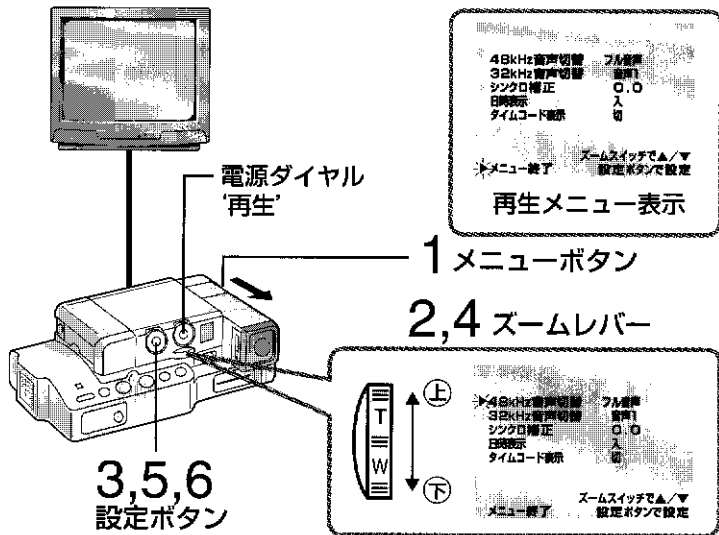
テープの「映像エリア」と「サブコードエリア」を書き換えるため、映像と日時などが新しくなります。(149ページ)

インサート編集がきれいにできない

テープの無記録部でインサートをすると、映像や、音声のみだれることがあります。必ず、テープの録画済み部分で、おこなってください。

再生メニュー の使い方

再生メニューを使っていろいろな機能の設定をすることができます。



●くわしい接続の内容は、82ページを参照してください。

再生メニュー表示で設定する機能には、48kHz音声切替・32kHz音声切替・シンクロ補正・日時表示・タイムコード表示の5種類があります。そのうち、48kHz音声切替・32kHz音声切替・日時表示・タイムコード表示は、この手順でおこないます。

1 メニューボタンを押す

- ファインダー内と接続したテレビに再生メニュー表示が出ます。

2 ズームレバーをスライドする

- ▶を「48kHz音声切替・32kHz音声切替・日時表示・タイムコード表示」のうちの、お好みの項目に合わせてください。+側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。

3 設定ボタンを押す

- ▶が点滅から点灯に変わり、変更したい項目が決定します。

4 ズームレバーをスライドする

- 選んだ項目の右側の表示が切りかわります。お好みの項目を選んでください。

5 設定ボタンを押す

- ▶が「メニュー終了」に移ります。
- 他に変えたい項目が有るときは、手順2～5を繰り返します。

6 もう一度、設定ボタンを押す

- 設定が終了し、再生メニュー表示が消えます。

再生メニューの使い方(つづき)

48kHz音声切替
32kHz音声切替
シンクロ補正
日時表示
タイムコード表示

フル音声
音声1
0.0
入切

フル音声
音声1 (93ページ)
音声2

入切 (95ページ)

入切 (94ページ)

▶メニュー終了

ズームスイッチで▲/▼
設定ボタンで設定

再生音声を切りかえる
再生メニューの使い方
(つづき)

再生音声を切りかえる

再生時に、48kHzで撮ったテープか、32kHzで撮ったテープか、自動判別して音声を出力します。(59ページ)

出荷時の設定は、48kHz音声切替では‘フル音声’で、32kHz音声切替では‘音声1’になっています。

撮影音声	表示	出力音声
48kHz <small>キヨベック</small>	フル音声	ステレオ音声で出力されます。
	音声1	左(L)チャンネルの音声 ¹ が左右から出力されます。
	音声2	右(R)チャンネルの音声 ² が左右から出力されます。
32kHz <small>キヨベック</small>	フル音声	ステレオ音声で出力されます。
	音声1	
	音声2	

48kHzで撮ったテープを再生するときに、出力される音声の設定をかえたい場合は、『再生メニューの使い方91ページ』の手順4で‘48kHz音声切替’を選んでください。

32kHzで撮ったテープを再生するときに、出力される音声の設定をかえたい場合は、『再生メニューの使い方91ページ』の手順4で‘32kHz音声切替’を選んでください。

アフレコ編集したときの音声については『アフレコ編集87ページ』をご覧ください。



リモコンを使う

リモコンの音声切替ボタンを使えば、再生メニューで設定しなくても、切りかえることができます。音声切替ボタンを押すごとに

フル音声 → 音声1 → 音声2
↑

と切りかわります。リモコンは、ステーションのリモコン受光部に向けて、操作してください。

テープを再生するとき

再生中に、48kHzで撮ったテープか32kHzで撮ったテープか、自動判別します。早送り/巻戻し再生中は自動判別することはできません。

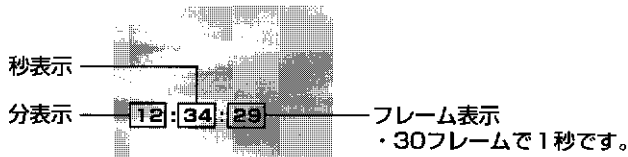
タイムコードを表示する

再生時にテープのどの位置に記録されているのか知りたいときは、タイムコードを表示してください。編集時の目安などにお使いください。
出荷時の設定は「切」になっています。

入	再生画面にテープのタイムコードを表示します。
切	再生画面のタイムコード表示が消えます。

タイムコード表示の入/切をしたい場合は、「再生メニューの使い方91ページ」の手順4で「タイムコード表示」を選んでください。

ファインダー表示

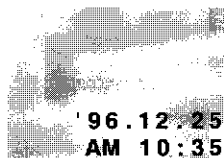


再生画面に日時を表示する

日時が合わせてあれば、撮影するときに、テープに自動的に映像とは別に日時を記録しています。再生するときにお好みの場所で日時を出したり消したりすることができます。出荷時の設定は「入」になっています。

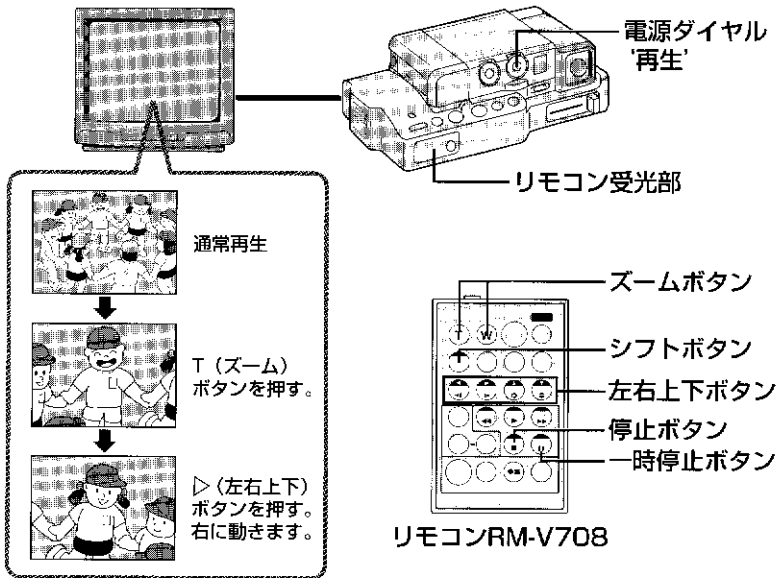
入	再生画面に日時を表示することができます。
切	再生画面の日時表示を消すことができます。

日時を表示したい場合は、『再生メニューの使い方91ページ』の手順4で「日時表示」を選んでください。



再生画面のズーム画面の移動

再生画のお好みの場所を、記録映像の10倍まで大きくして見ることができます。



・くわしい接続の内容は、82ページを参照してください。

1 テープを再生する

2 リモコンのズームボタンを押す

- リモコンのボタンは、ステーションのリモコン受光部におけて押してください。
- Tボタンを押すと拡大します。拡大した映像を縮小するときは、Wボタンを押してください。
- 記録映像の約10倍まで大きくすることができます。
- 映像を電氣的に処理（デジタルズーム）しているため、映像は劣下します。

3 リモコンのシフトボタンを押したまま左右上下ボタンのいずれかを押す

- 拡大した映像から、見たい部分を探すことができます。

再生ズームをやめるには…

通常再生の大きさに戻るまで、Wボタンを押す
または、停止ボタンを押し、再生ボタンを押す



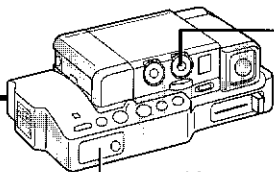
他の機能と同時に使う

- スロー再生中に再生ズームを使うことができます。
- 見たい場面を一時停止して、ズームアップすることができます。

再生ズームをしているときに

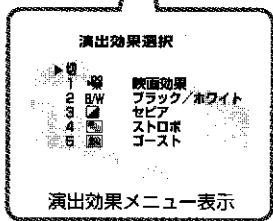
「再生画面の効果演出（98ページ）」のゴーストを選択すると、再生画面はゴーストで演出されます。再生ズームは中止し、通常に戻ります。

再生画面の 演出効果



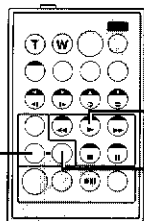
電源ダイヤル
'再生'

リモコン受光部



くわしい接続の内容は、82ページを参照してください。

再生映像に変化をつけたいときにお使いください。5つの効果から、お好みの効果を選んでお使いになることができます。



再生ボタン

演出効果
ボタン

演出効果
入/切ボタン

リモコンRM-V708

1 テープを再生する

2 リモコンの演出効果ボタンを押す

- リモコンのボタンは、ステーションのリモコン受光部にむけて押してください。
- テレビ画面に演出効果メニューが出ます。

3 演出効果ボタンで▶をお好みの項目に合わせる

- 押すごとに▶が移ります。
- お好みの項目に▶を合わせると2秒後に演出効果メニューが消え、選んだ機能の設定になります。再生映像を選んだ機能で演出します。

演出効果をやめるには…

リモコンの演出効果入/切ボタンを押す

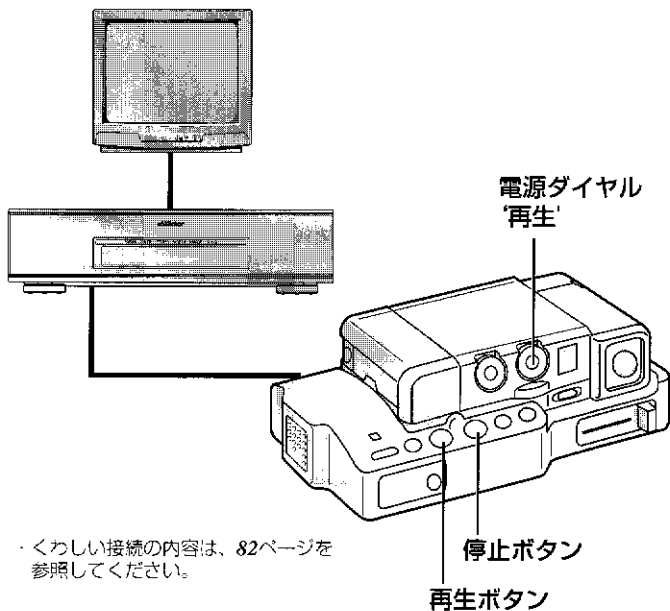


再生で使える演出効果

映画効果・ブラック/ホワイト・セピア・ストロボ・ゴーストの5つの効果を使うことができます。効果をつけた映像は、撮影時の演出効果と同じ動きをします。くわしくは76、77ページをお読みください。

ダビングする

ムービーで撮ったテープを、ビデオテープにダビングすることができません。くわしくはデッキの取扱説明書もお読みください。



1 ムービー、ステーション、ビデオデッキを接続し、電源を入れる

- 再生した映像と音声テレビから出るように『テレビ画面で再生する(82ページ)』の『ビデオデッキにつないだとき(84ページ)』と同じように設定してください。

2 テープを再生する

3 ダビングしたいところでビデオデッキの録画をスタートさせる

4 ダビング中カットしたいところはデッキを録画一時停止にする

ダビングを終えるには…

停止ボタンを押す



再生画像に変化をつけて

手順2で『再生画面のズーム／画面の移動(96ページ)』や『再生画面の演出効果(98ページ)』を使って変化をつけ、ダビングすることができます。

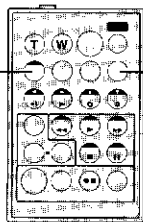
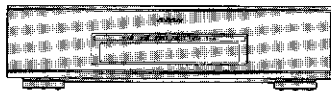
テレビ画面に表示を出しているとき

接続したテレビ画面に、再生音声表示(48kHz/フル音声など)が表示されているときは、ダビングを始める前に、消してください。リモコンの画面表示ボタンを押すことによって、表示させたり、消したりすることができます。タイムコード表示、日時表示を消すとき(出すとき)は、再生メニューで切って(入れて)ください。(94、95ページ)

表示させたままダビングをすると、ダビングテープに、表示も記録されます。

メーカー設定 をする

自動編集をするときや、付属のリモコンでビデオデッキの操作をするときはあらかじめリモコンにビデオデッキのメーカー設定をしなければなりません。



シフトボタン

設定ボタン

リモコンでビデオデッキ操作もできます。
(再生/早送り/巻戻し/一時停止/停止ボタン) メーカー設定ができたならこのボタンを押しながらデッキに向けて操作したいボタン類を押します。

リモコンRM-V708

メーカー設定表

メーカー名	メーカー設定ボタン		メーカー名	メーカー設定ボタン	
	①	②		①	②
ビクター	A	ビデオ準備 巻戻し	ソニー	D	シフト 巻戻し
	B	ビデオ準備 停止	東芝	A	停止 ビデオ準備
	C	ビデオ準備 シフト		B	停止 巻戻し
アカイ	A	停止 早送り	NEC	A	シフト <small>ひかり/ひかり</small>
	B	停止 再生		B	シフト 修正
	C	<small>ひかり/ひかり</small> <small>ひかり/ひかり</small>	日立	A	停止 停止
サンヨー	A	シフト 停止	フナイ	B	停止 シフト
	B	シフト 一時停止		A	<small>ひかり/ひかり</small> シフト
	C	シフト 入/切※		A	巻戻し シフト
	D	<small>ひかり/ひかり</small> ビデオ準備		B	巻戻し <small>ひかり/ひかり</small>
シャープ	A	巻戻し 一時停止	松下	C	巻戻し 巻戻し
	B	巻戻し 入/切※		D	ビデオ準備 再生
ソニー	A	停止 一時停止	三菱	E	巻戻し 修正
	B	停止 入/切※		A	停止 <small>ひかり/ひかり</small>
	C	シフト ビデオ準備		B	停止 修正

※メーカー設定表の入/切ボタンは、プログラム編集枠内の入/切ボタンです。

●一部、設定できないビデオデッキや、特定のボタンだけ操作できないビデオデッキもあります。ご了承ください。

1 リモコンをビデオデッキに向け設定ボタンを押しつづける

●ビデオデッキの電源は切って始めてください。

2 希望メーカーのメーカー設定ボタンを ① → ② の順に押す

●信号の種類は複数あります。

Aを設定→動作確認

ビデオデッキが動作しないときは

B, C, D, Eを設定→動作確認

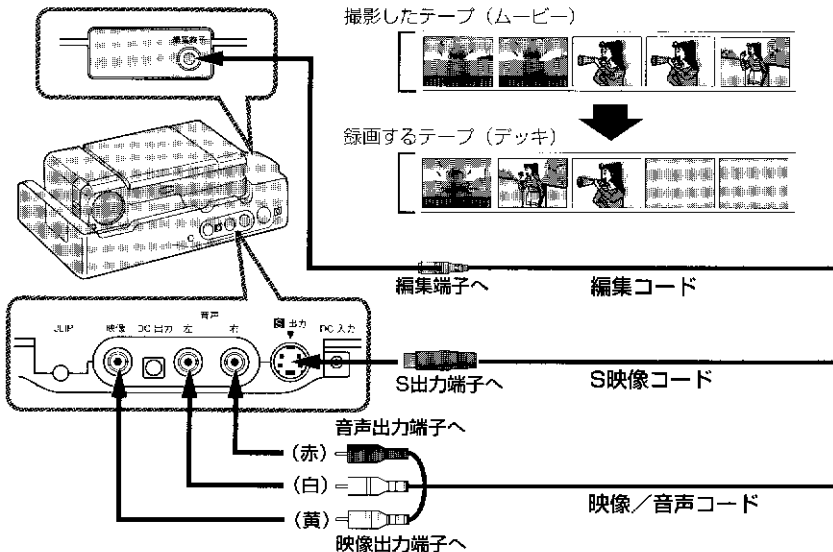
の順でビデオデッキが動作するメーカー設定をしてください。

3 設定ボタンを離します

●ビデオデッキの電源が入ったら終わりです。動作確認をおこなってください。

●ボタン電池が消耗したり、電池交換したときは、再度メーカー設定してください。

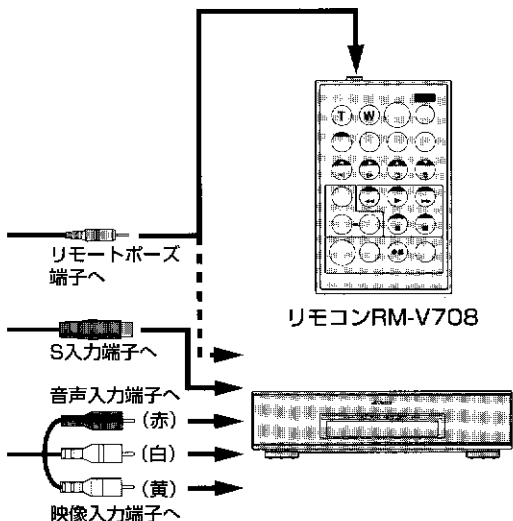
場面を決めて編集 する(自動編集)



リモコンを使って、好きな場面に映像効果をつけて、オリジナルテープを作ることができます。

1 ムービーとステーションとビデオデッキをつなぐ

- 再生した映像と音声が生テレビから出るように「テレビ画面で再生する(82ページ)」の『ビデオデッキにつないだとき(84ページ)』と同じように設定してください。



接続するとき

- ビクターのリモートポーズ端子付ビデオデッキをお使いのときは、編集コードで編集端子とビデオデッキのリモートポーズ端子を接続します。
- S映像コードは、ビデオデッキにS入力端子があるときに接続します。
- ビデオデッキの音声入力端子が一つの場合は、市販の変換プラグで接続してください。

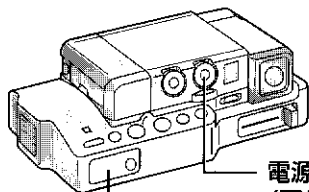
リモコンでのビデオデッキの操作は

シフトボタンを押しながら操作したいボタン類をビデオデッキに向けて押します。

(自動編集つぎき)

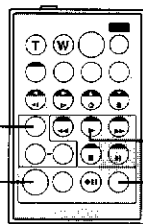
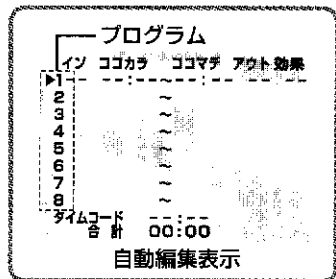
場面を決めて編集する

ダビングするところを選ぶ



電源ダイヤル
'再生'

リモコン受光部



場面切替ボタン

ここから/
ここまでボタン

再生ボタン

プログラム編集
入/切ボタン

リモコンRM-V708

2 テープを再生し、リモコンのプログラム編集入/切ボタンを押す

- リモコンはリモコン受光部に向けて操作してください。
- テレビ画面に、自動編集表示が出ます。

3 場面のつながりに変化をつけたいときは、リモコンの場面切替ボタンを押す

- 押すごとに切りかわります。お好みの効果を選んでください。ただし、プログラム1番の編集開始点で、映像ワイプを使うことはできません。

4 場面の初めで、ここから/ここまでボタンを押す

- ファインダー内や、接続したテレビに、編集開始点のカウンター値が出ます。

5 場面の終わりで、ここから/ここまでボタンを押す

- ファインダー内や、接続したテレビに、編集終了点のカウンター値がでます。



ダビングするところを選ぶとき

- ・編集終了点のカウンター値は、編集開始点より大きい値でのみ設定できます。
- ・編集終了点と次の編集開始点までの早送り時間がビデオデッキの一時停止保持可能な時間を超える場合は編集できません。
- ・入/切ボタンで切にすると登録した内容が消えます。
- ・編集開始点や終了点の前後に、無記録部分が有ると、ブルーバック（青い画面）を記録してしまうことがあります。
- ・編集開始点、終了点のタイムコード表示には、1秒以下の数値を表示しないため、各プログラムのタイムコード表示の合計と合計時間が合わないことがあります。



場面を早く探すには

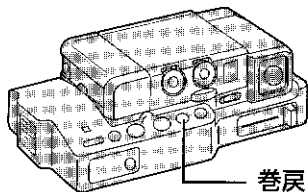
早送り/巻戻しボタンで探し、再生ボタンか一時停止ボタンで止めます。

自動編集するとき

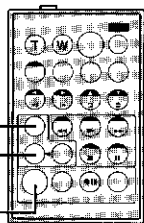
自動編集で場面切替や演出効果を使わない場合は、手順1、2のあと手順4、5をおこなってから手順4、5を繰り返してください。
プログラムは8つまで登録できます。登録が終わったら、手順9～11をおこなってください。

(自動編集つづき)

場面を決めて編集する



巻戻しボタン



場面切替ボタン

演出効果ボタン

ここから/
ここまでボタン



リモコンRM-V708

6 場面のつなぎに変化をつけたいときは、リモコンの場面切替ボタンを押す

- 押すごとに切りかわります。お好みの効果を選んでください。ただし、最後のプログラムの編集終了点で、映像ワイブを使うことはできません。
- 編集終了点の場面切替を決めると、自動的に次の編集開始点が編集終了点と同じ場面切替になります。
- 編集終了点でフェーダー／ワイブを使うと、編集終了点からフェードアウト／ワイブアウトをおこなうため、フェーダー／ワイブの時間が、合計に加算されます。

7 映像に変化をつけたいときは、リモコンの演出効果ボタンを押す

- 押すごとに切りかわります。お好みの効果を選んでください。

8 手順4～7を繰り返して登録する

- プログラムは8つまで登録することができます。

9 入れたい場面の付近まで巻戻しムービーを一時停止にする



登録を修正するには

リモコンの修正ボタンを押すごとに、最後に登録したものを順に消えます。

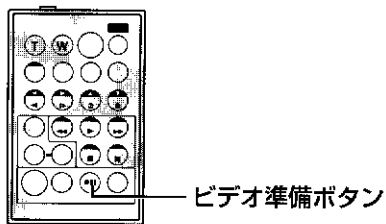
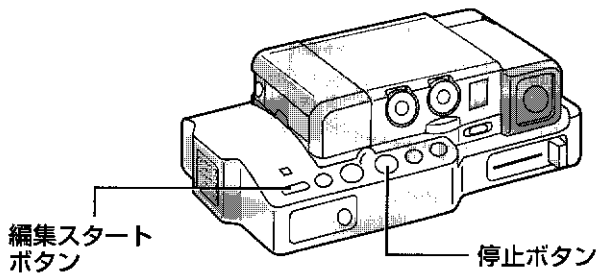
演出効果と場面切替の効果

撮影時の効果と同様の効果を出すことができます。

場面切替と演出効果

演出効果のセピア・ブラック／ホワイトを使うと、場面切替のオーバーラップ・白黒フェーダーは使えません。使えない演出効果や場面切替の表示は点滅し、次のココカラ点を入れると、点滅から「切」になります。一緒に使って編集したいときは、まずセピア・ブラック／ホワイトを使って撮影し(74ページ)、そのテープをオーバーラップ・白黒フェーダーを使って自動編集してください。

場面を決めて編集する
(自動編集つぎぎ)



リモコンRM-V708

10 ビデオ準備ボタンを押す

- リモコンのボタンはビデオデッキのリモコン受光部に向けて押してください。
- ビデオデッキが録画一時停止になることを確認してください。しないときは、ビデオデッキを直接操作して録画一時停止にしてください。

11 ステーションの編集スタートボタンを押す

- プログラム順に編集が始まり、最後まで自動的にダビングします。
- 手順6で場面切替を設定すると、編集終了点と次の編集開始点を場面切替を使って切りかえます。
- 手順7で演出効果を設定すると、編集開始点と編集終了点の間の映像に演出効果で変化をつけることができます。
- ダビングが終わるとムービーは一時停止、ビデオデッキは録画一時停止になります。
- 編集終了点を決めなければテープの最後まで自動的にダビングします。

自動編集が終わったら…

ムービーとビデオデッキを停止させる



ダビングするとき

- ・ダビング中はリモコンをビデオデッキの受光部に向けて置いてください。さまたげる物があるとダビングできません。
- ・ダビング中、ムービーを操作するとデッキは録画一時停止になります。



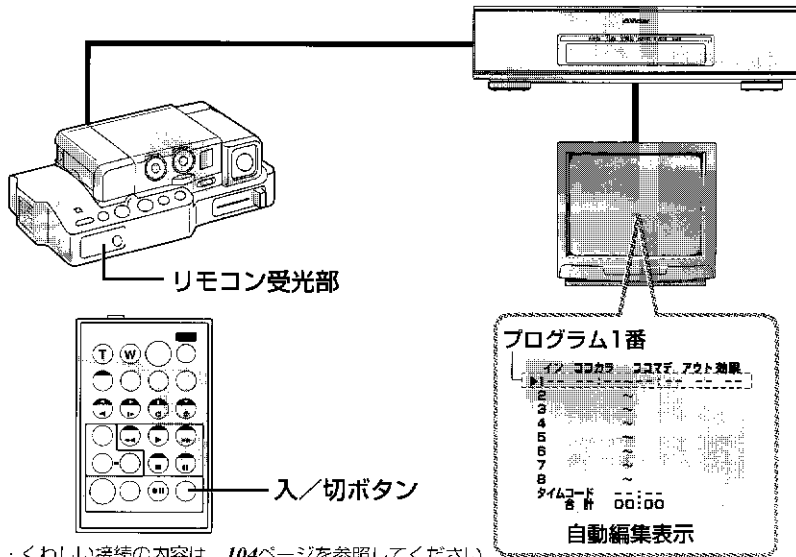
録画タイミングの誤差を補正をする (112ページ)

ムービーとビデオデッキを編集スタートボタンで同時に編集をスタートさせたつもりでも、ビデオデッキによって反応の速いものと遅いものがあります。そのため、さっかくカウンターを設定して自動編集しても、余計なシーンもダビングしていたり、その反対に必要なシーンをダビングできなかったりします。そのようなムービーとビデオデッキの反応のタイミングの誤差を入力することによって、必要なシーンだけダビングすることができます。

補正をおこなってから、再び自動編集の設定をおこなってください。

より精度の高い 編集をする！

録画タイミングの誤差を調べる



ビデオデッキの録画スタート/ストップのタイミングを調節し、精度の高い編集ができます。

・くわしい接続の内容は、104ページを参照してください。

1 ムービーでテープを再生し、リモコンの入/切ボタンを押す

- ステーションの受光部に向けて操作してください。
- テレビ画面に、自動編集表示が出ます。

2 適当な場面を自動編集する

- 編集開始点/編集終了点は、ムービーとビデオデッキのズレがわかりやすいように、場面が切りかわっている部分を設定してください。
- 自動編集は、プログラム1番のみおこなってください。

3 ダビングテープを巻戻し、再生する

- 希望の編集開始点よりも前の映像が、ダビングされているときは、ビデオデッキの方が先に録画を始めています。
- 希望の編集開始点の映像がダビングされていないときは、ビデオデッキの方が後に録画を始めています。

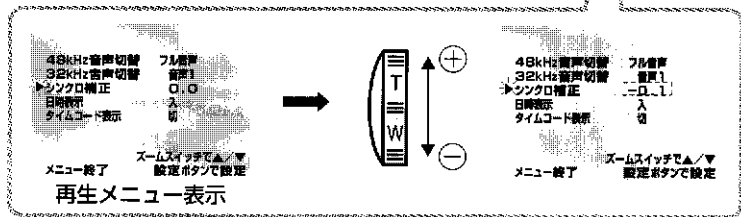
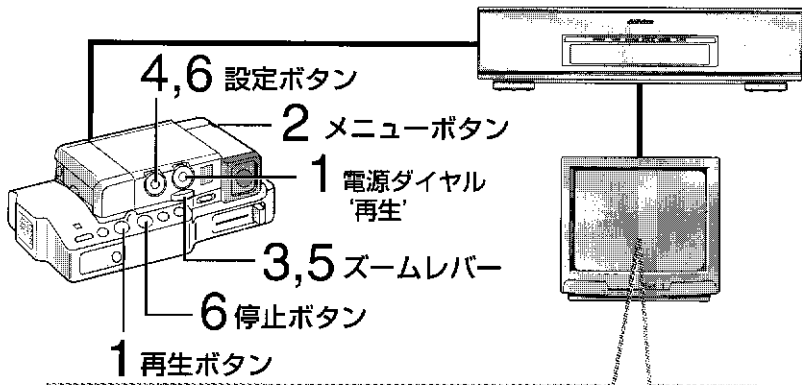


補正しても合わない

ダビングするビデオデッキによっては、録画スタートのタイミングがズレ、録画タイミングの誤差を補正しても、補正しきれないことがあります。

より精度の高い編集
をする！(じじい)

録画タイミングの誤差を補正する



- 1 電源ダイヤルを '再生' にする
- 2 メニューボタンを押す
 - テレビ画面に再生メニュー表示が出ます。
- 3 ズームレバーをスライドさせ▶を 'シンクロ補正' 合わせる
 - +側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。
- 4 設定ボタンを押す
 - ▶が点滅から点灯にかかります。

5 ズームレバーをスライドさせ、補正カウンターを入力する

- ムービーで設定した開始点よりも、ビデオデッキの方が先に録画を始めた場合はマイナス (-) で、後に録画を始めた場合はプラス (+) で入力してください。
- 1.3~+1.3秒まで0.1秒単位で設定できます。
- +側にスライドさせると数が大きく、-側にスライドさせると数が小さくなります。
- 編集終了点のシンクロ補正はできません。

6 設定ボタンを2回押す

- 設定が終了します。
- 「場面を決めて編集する (104ページ)」をおこなってください。

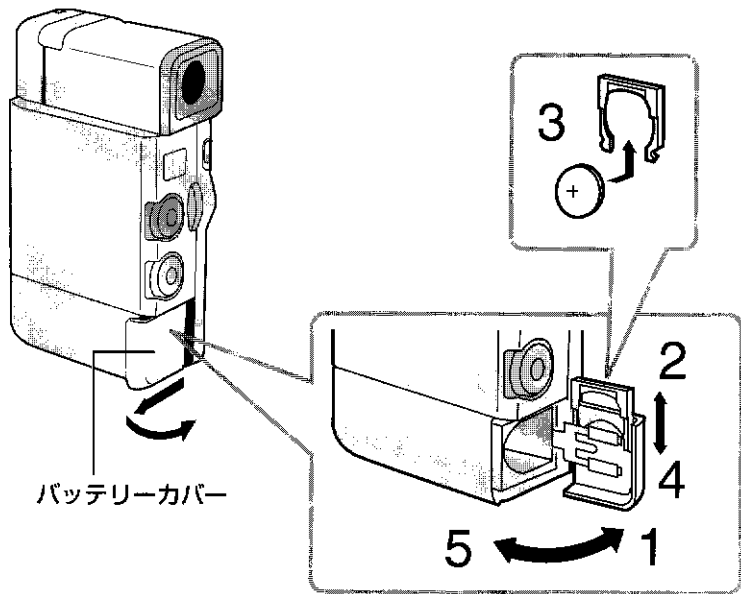



自動編集をする前に

手順5で補正值を入力します。補正值が正しいか、数回確かめてから、最終的な自動編集をすることを、おすすめします。

ボタン電池を 入れかえる

ボタン電池は、日付、時刻の記憶を保つために必要です。



お買い上げ時はすでに取り付けられています。
ムービーの電源を入れたとき、ファインダー内に
を表示したら交換してください。



- ・電池は幼児の手の届かない所においてください。
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師と相談してください。
- ・ムービーをステーションに取り付けたままボタン電池を交換しないでください。

1 バッテリーカバーを開く

2 バッテリーカバーの電池取り付け部を矢印方向に引き出す


3 ボタン電池の+側が見えるように、取り付け部にはめる

4 取り付け部を矢印方向に差し込む

5 バッテリーカバーを閉める



電池を交換する時期は

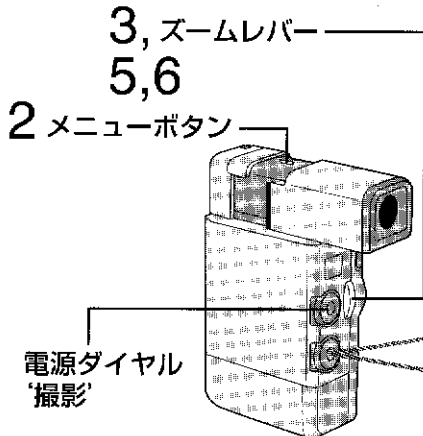
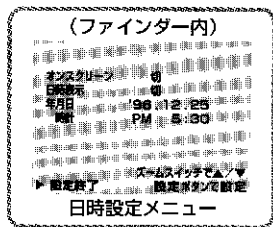
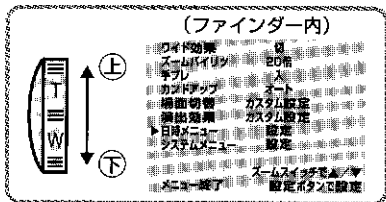
- ・ボタン電池の寿命は約1年です。お買い上げ時に取り付けられているのはサービス電池ですので、1年もたないことがあります。
- ・電池の容量が少なくなると、電源を入れたときファインダー内に  を表示します。

電池を交換するときは

- ・CR2025ボタン電池を最寄りの電気店など（またはカメラ店）でお求めください。
- ・交換後は日時合わせをやり直してください。
- ・「ご使用前に(3ページ)」のボタン電池の注意文も良くお読みください。

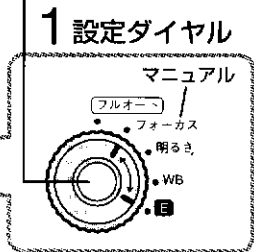
日時を合わせる

日時は、お買い上げ時にすでに合わせてあります。日時は、撮影時に映像とは別に自動でテープに記録します。



4, 設定ボタン

5,6,7



撮影時に表示を出しておかなくても、再生する時に日時を表示させたり消すことができます。必ず、日時は合わせておきましょう。

1 電源ダイヤルを‘撮影’にし、設定ダイヤルを‘マニュアル’にする

2 メニューボタンを押す
●ファインダー内に撮影メニュー表示が出ます。

3 ズームレバーで▶を‘日時メニュー’に合わせる
●+側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。

4 設定ボタンを押す
●ファインダー内に日時設定メニューが出ます。

5 ズームレバーで▶を‘年月日’に合わせ、設定ボタンを押す
●年が点滅します。

6 ズームレバーで数字を合わせ、設定ボタンを押す
●-側にスライドさせると数が大きく、-側にスライドさせると数が小さくなります。
●年は西暦下2ケタの数字を合わせます。
（例）1996→96
●年→月→日→時→分の順に合わせます。
●AM12:00は午前0時、PM12:00は正午を表わします。

7 設定ボタンを2回押す
●設定が終了します。

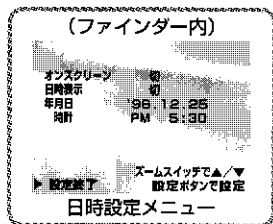
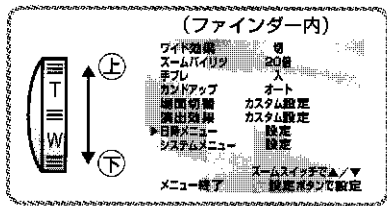


日時が進まない

日時設定メニューを表示したままにすると、時計表示は変わりませんが、ムービー内の時計は進んでいます。日時設定メニューを消せば、日時表示は現在時刻を表示します。

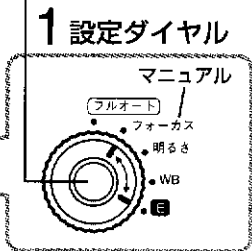
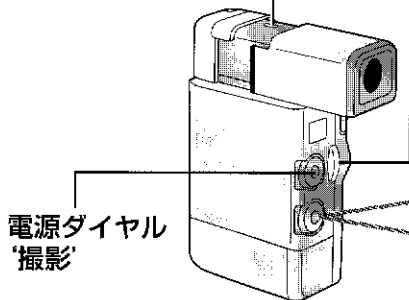
撮影時に日時 を表示する

出荷時の設定では、日時を表示して撮影するようになっていません。日時を表示したくないときは、設定してください。



3, ズームレバー
 5, 6
 2 メニューボタン

4, 設定ボタン
 5, 6, 7



撮影時に表示を出しておかなくても、再生する時に日時を表示させたり消すことができます。

- 1 設定ダイヤルを 'マニュアル' にする
- 2 メニューボタンを押す
 - ファインダー内に撮影メニュー表示が出ます。
- 3 ズームレバーで▶を '日時メニュー' に合わせる
 - +側にスライドさせると上に、-側にスライドさせると下に▶が移ります。
- 4 設定ボタンを押す
 - ファインダー内に日時設定メニューが出ます。

5 ズームレバーで▶を '日時表示' に合わせ、設定ボタンを押す

●▶が点滅から点灯に変わります。

6 ズームレバーで '入' にし、設定ボタンを押す

●▶が '設定終了' に移ります。

7 設定ボタンを2回押す

●設定が終了します。



ファインダー内の表示をテレビに出す
テレビとムービーをつなぎオンスクリーンを選ぶと、撮影一時停止状態でファインダー内の表示をテレビに出すことができます。手順5,6で 'オンスクリーン' を '入' にし、メニューボタンを押してください。メニュー画面が消え、設定終了になります。

その他

以下の処置をしても改善されない場合は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。

症 状	処 置	ページ
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源は正しく接続されていますか。 ●バッテリーは充電されていますか。 ●ファインダーを引き出していますか。(撮影時) 	14 12
撮影ができない	<ul style="list-style-type: none"> ●誤消去防止用のフタがSAVE側になっていませんか。 ●電源ダイヤルが '再生' になっていませんか。 ■電源スイッチを '撮影' にあわせてからスタート/ストップボタンを押してください。 	17 22
映像が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ■電源をもう一度入れ直してください。 ●レンズカバーが閉じていませんか。 	14 22
いろいろな機能が使えない	<ul style="list-style-type: none"> ■設定ダイヤルが 'フルオート' になっていませんか。'フルオート' 以外の位置にしてください。 ■電源ダイヤルが '5S' になっていませんか。'5S' 以外の位置にしてください。 	20
自動でピントが合わない	<ul style="list-style-type: none"> ●フォーカスが '手動' になっていませんか。 ■設定ボタンを使ってオートフォーカスにしてください。 ●暗い所や明暗差のないものを撮影していませんか。 ●ファインダーの視度調節を合わせましたか。 ●レンズにゴミや水滴などが付いていませんか。 	40 19

症 状	処 置	ページ
テープが入らない	<ul style="list-style-type: none"> ■テープの向きが間違っていないか。入れなおしてください。 ■バッテリーの容量が少なくなっていないか。 	16 17
再生、巻戻し、早送りができない	<ul style="list-style-type: none"> ■電源ダイヤルは '再生' になっていますか。 ■カセットカバーが開いていませんか。閉じてください。 	36
テープは回っているが再生しない	<ul style="list-style-type: none"> ■AV端子付きテレビの場合は、テレビのチャンネルを 'ビデオ' にしてください。 (テレビのチャンネルがビデオ専用チャンネル1か2になっていますか。) 	39 85
被写体に強い光が入ると縦に明るい線が出る	<ul style="list-style-type: none"> ●大きなコントラストの違いによる現象で、故障ではありません。 	-
電源ダイヤルを '5S' にして撮影したが、5秒たたずに撮影が終わってしまう	<ul style="list-style-type: none"> ●システムメニューの 'シーン' で、'アニメ' を選んでいませんか。 ■ '5S' か '5SD' を選んでください。 	56 58 60
撮影メニューの 'カンドアップ' で 'オート' を選んでいるのに、暗いところでも明るく撮れない	<ul style="list-style-type: none"> ●撮影時の光源によっては、画面のチラつきをおさえるため、1/30秒シャッターにならないことがあります。 	55

症 状	処 置	ページ
記念写真が使えない	<ul style="list-style-type: none"> ■演出効果のセピアやブラック／ホワイト、高感度を使っているときは、記念写真ボタンを押しても、オーバーラップをしません。 ■撮影メニュー表示で 'ワイド' を選んでいるときは、記念写真は使えません。 ■撮影メニュー表示で 'シネマ' を選んでいるときは、記念写真ボタンを押しても、白ワクは付きません。 	76 53
	<ul style="list-style-type: none"> ●撮影メニュー表示でズームバイリツを10倍にしていませんか。20倍か100倍にしてください。 ■演出効果のゴーストを使っているときは、デジタルズームは使えません。 ■場面切替の映像ワイプやオーバーラップで映像を記憶しているときは、デジタルズームは使えません。 ■システムメニュー表示で '5SD' を選び、電源ダイヤル '5S' で撮影したときに、映像を記憶した状態では、デジタルズームは使えません。 ■デジタルズーム中に、記念写真のオーバーラップをすると、デジタルズームは解除されます。 	55 76 68 31 26
演出効果や場面切替を設定しているのに、効果が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ●設定ダイヤルが 'フルオート' になっていませんか。 ●電源ダイヤルを '5 S' にしていませんか。 ■電源ダイヤルが '5 S' のときは、フルオート撮影になります。演出効果や場面切替やその他のマニュアル操作は受け付けません。 	30

症 状	処 置	ページ
映像ワイプや、オーバーラップができない	<ul style="list-style-type: none"> ●最後の場面を記憶した状態ですか。 ■映像ワイプ/オーバーラップを選んでから一度撮影してください。自動的に記憶します。 ●最後の場面を記憶した状態で、電源ダイヤルを‘切’にしませんでしたか。 ●電源が切れていませんか。(撮影一時停止を5分以上続けると、テープの保護と節電のため自動的に電源が切れます。) ●最後の場面を記憶した状態で演出効果を変更しませんでしたか。 ●撮影メニュー表示の演出効果を変更しませんでしたか。 ■以上のことをおこなうと最後の場面の記憶は解除され、映像ワイプ/オーバーラップはできません。 	64] 71
場面切替のオーバーラップが使えない	<ul style="list-style-type: none"> ■演出効果のセピアやブラック/ホワイト、高感度を使っているときは、オーバーラップは使えません。 ■撮影メニュー表示で‘ワイド’を選んでいるときは、オーバーラップは使えません。 	76 53
場面切替の映像ワイプが使えない	<ul style="list-style-type: none"> ■演出効果の高感度を使っているときは、映像ワイプは使えません。 ■撮影メニュー表示で‘ワイド’や‘シネマ’を選んでいるときは、映像ワイプは使えません。 	77 53

症 状	処 置	ページ
場面切替の白黒フェーダーが使えない	■演出効果のセピアやブラック／ホワイトを使っているときは、白黒フェーダーは使えません。	76
演出効果のゴーストを使えない	■撮影メニュー表示で‘ワイド’を選んでいるときは、ゴーストはつかえません。 ■映像ワイプやオーバーラップで映像を記憶しているときは、ゴーストはつかえません。 ■撮影中に記念写真ボタンを押したときのオーバーラップ中は、ゴーストは使えません。 ■白黒フェーダー、白フェーダー、黒フェーダーのフェードイン／フェードアウト中は、ゴーストは使えません。	53 68 27 66
演出効果の映画効果やストロボを選んでも、コマ落とし効果が出ない	■映像ワイプやオーバーラップで映像を記憶しているときは、コマ落とし効果は出ません。 ■撮影中に記念写真ボタンを押したときのオーバーラップ中は、コマ落とし効果は出ません。	70 27
ホワイトバランスが設定できない	■演出効果のセピアやブラック／ホワイトを使っているときは、ホワイトバランスは設定できません。	76
ファインダー内が汚れている	■ファインダー内を、市販の綿棒や、市販のレンズブローアで清掃してください。	133

症 状	処 置	ページ
ファインダーの表示が点滅する	■機能によっては場面切替、演出効果、手振れ補正を同時に使用できないものがあります。使用できない機能は点滅して知らせます。	54 65 69
暗いところを撮影すると、コマ落とし効果がでる	■暗いところを撮影すると、自動的に感度が上がり、演出効果の高感度のようになります。自然に撮影したときは撮影メニューのカンドアップを 'AGC' が '切' にしてください。	55
映像や音声が乱れる	■テープの同じ位置で、アフレコ編集やインサート編集を繰り返しておこなっていませんか。映像や音声が乱れることがあります。	86 88
ファインダー内に見慣れないマークが出た	■ファインダー表示の一覧をご覧ください。	142
ファインダー内にE01～07などが表示された	■拡大故障を防ぐため操作ができなくなります。テープを取り出しバッテリーをはずして数分待ち、表示が消えてからお使いください。 表示が消えない場合は、お買い上げ販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。	—

必ずお読み ください

ムービーについて

◆取り扱いのご注意

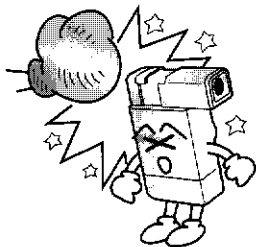
撮影中、再生中は電源をはずさない

- テープを傷めたり、誤動作の原因になります。



長時間電源を入れたままにすると、ムービーの表面が温かくなります。故障ではありません。長時間使用しないときは、電源ダイヤルを「切」にしてください。

衝撃を与えない



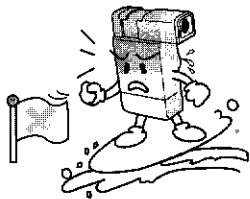
このムービーはマイコンを使用しています。雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。そのときはムービーから電源（バッテリー、ACアダプター）やボタン電池を一度外してから、改めてご使用ください。

◆使用場所のご注意

以下の場所での使用、放置は故障の原因となるのでお避けください。

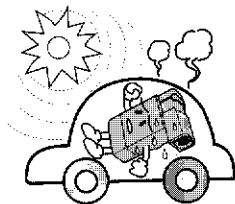
湿気や油煙、ほこりの多い所

- 砂浜などでの使用は内部に砂や海水が入らないように、また雨天、降雪中の使用では、濡らさないようにご注意ください。



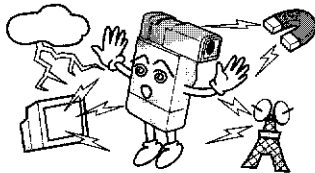
温度が高い所

- 窓を閉めきった自動車の中や、熱器具や暖房の近くなど。(周囲温度は0~40℃の範囲、湿度は35%~80%内の場所で使用されることをおすすめします。)



強い電波や磁気の発生する所、また雷が近いときは使用しない

- テレビの上や近くでは使用しないでください。
- RFユニットやACアダプターを使用しているときは、なるべくムービーから遠ざけてご使用ください。



必ずお読みください

(しじみ)

つゆつきについて

よく冷えたビールをコップにつぐと、コップのまわりに徐々に水滴が付きます。この状態を‘つゆつき’といいます。

〈湿気は大敵〉つゆつきが発生すると

ムービーの心臓部であるヘッドドラムの周りに徐々に水滴が付き、テープが貼り付き傷ついてしまいます。つゆつきマークが出る前でも、レンズやファインダー内に水滴がついているときは、ヘッドドラムにも水滴が付いている場合があります。カセットカバーを開けないでください。



◆つゆつきはこんなときにおこります

- ムービーを寒いところから急に暖かいところに移動したとき。
- 湿気の多いところでの使用時。
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるとき。

◆つゆつき後再び使い始めるには

電源を切って約1時間待ちます。その後電源を入れて数分待ち、つゆつき表示が消えてからご使用ください。消えない場合は点検が必要です。お買い上げ販売店にご相談ください。

ファインダー内につゆつきマークが
出たらムービーは停止
します。テープを出したり、入
れたりすることはできません。

◆つゆつきのトラブルを防ぐには

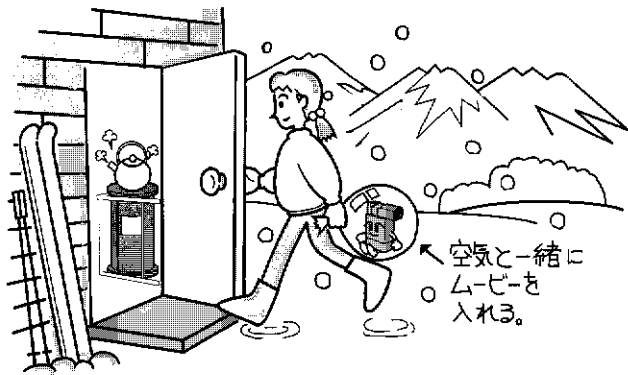
つゆつきのおこるような環境

- ・寒い所から暖かい所
- ・冷房のきいた所から湿度・湿度の高い所

での使用は、移動時にムービーとテープをしばらくおいて、その環境になじませてからお使いください。


- 例えば、スキー場で撮影後、暖房のきいた部屋に入るときはビニール袋等にムービーを入れて（一緒に空気も入れる）移動し、しばらくその状態で環境になじませるとつゆつき防止に効果的です。

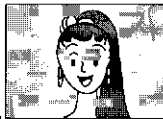
- ・つゆつきはレンズにもおこります。きれいに撮影できませんのでつゆつきがなくなってから撮影してください。
- ・通常、つゆつきは徐々に進行し、10～15分間は現象が現われないことがあります。
- ・寒冷地域では露が凍結し、霜になることがあります、さらに時間がかかります。



ヘッドの汚れについて

ヘッドが汚れると、以下のような症状が出ます。

- ・再生しても映像が出ない
- ・再生しても、ブロック状のノイズが出る
- ・撮影しても、ファインダー内にヘッド目づまり表示  が出る



このような時は、デジタルビデオヘッドクリーナーM-DV2CL(別売)を約20秒間再生して、ヘッドを清掃してください。20秒間再生すると、自動的にムービーは停止します。20秒以上くりかえし再生すると、ヘッド摩耗の原因になります。

◆ヘッドの汚れる原因は

高温・多湿

- しばらくその環境になじませた後で使用ください。

テープの傷

- 傷のあるテープは磁性粉がはがれヘッド汚れの原因となります。

空気中のほこり・ちり・長時間の使用

- デジタルビデオヘッドクリーナーでクリーニングしてください。



ヘッドは摩耗します

デジタルビデオヘッドクリーナーで清掃しても鮮明な映像が映らない場合はチェックまたは交換が必要です。お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。

お手入れについて

◆ボディーの汚れは

お手入れのときは、電源をはずしておこなってください。

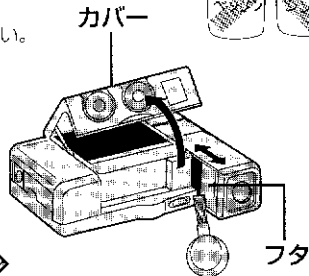
- 乾いた柔らかい布などで拭きとってください。
- ひどい汚れは、水でうすめた中性洗剤に布を浸し、固く絞ってから汚れを拭き、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんや洗剤をご使用の際は、その注意書に従ってください。



◆ファインダーの中を掃除するには

カバーを開け、ファインダーを引き出しフタをスライドして開け、ファインダーの中を綿棒（市販）やレンズブLOWER（市販）で清掃してください。

- ・バッテリー（電源）をはずし、ホルダーは開けないでおこなってください。



◆レンズはいつもきれいに

レンズブLOWER（市販）でほこりを落とし、レンズクリーニングペーパー（市販）などで清掃してください。

汚れたままでは、カビなどが発生する場合があります。



定期点検のおすすめ

ヘッドやテープを動かす機械部品はお使いになる間に汚れたり、摩耗したりしています。性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくために、およそ1000時間をめどに点検されることをおすすめします。

その他

テープについて

- 撮影済みテープに新しく撮影すると、前の映像と音は自動的に消えます。
- テープは裏返しでは使えません。
- テープを走行させないでテープの出し入れを繰り返さないでください。

バッテリーについて

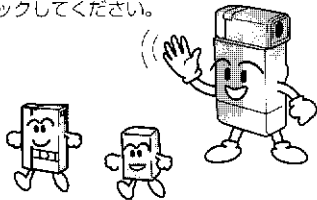
- 火や暖房器具の近く、窓をしめきった自動車内など異常に温度が高くなる（80℃以上）場所での使用、放置は避けてください。電池が漏液したり、故障の原因になります。
- 水に濡らさないでください。故障の原因になります。また、濡れてしまったバッテリーを決して充電しないでください。
- バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
- 充電は、専用の充電器以外を使用しないでください。万一、専用の充電器以外で充電した場合は、十分に充電されなかったり、故障、発火する恐れがあります。
- リチウムイオンバッテリーは小型で大容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温（10℃以下）では、バッテリーの使用時間は短くなる特性があり、0℃以下では動作しないこともあります。このような時は、バッテリーをポケットに入れるなどして暖かくし、撮影直前にムービーに取り付けてください。バッテリー自体が極度に冷えていなければ、ムービーの動作上問題ありません。（カイロなどをご使用になっている場合は、直接カイロがバッテリーに触れないように、ご注意ください。）
または、別売のグリップバッテリーケースCU-V777のご使用をおすすめします。クリップバッテリーケースは、バッテリーBN-V712を2個使い、0℃の環境でもムービーを動作させることができます。
- 充電直後でも、バッテリーの使用時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命です。新しいものをお買い求めください。

正しい保存のしかた

ムービーは

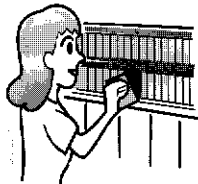
ふだん使用しないときは、テープを出し、電源を切りバッテリーをはずしておく

●機能に支障をきたす場合がありますのでときどき電源を入れ、チェックしてください。



テープは

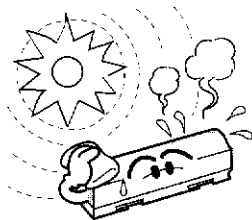
ケースに入れ、湿気が少なく風通しの良い、カビの発生しにくいところに立てておく



バッテリーは

温度が上がらない乾燥したところに保存する

●高温の場所に置くと寿命が短くなり、自己放電も多くなります。

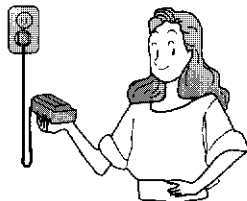


海外で使う

このムービーは外国でもお使いになれます

ACアダプター（別売キット）は海外でもバッテリーの充電ができます。
ただし、コンセントの形状は国によって異なるため訪問国のコンセントに合った
変換プラグ（空港売店で販売）が必要です。
くわしくはビクターサービス窓口にご相談ください。

コンセントの形状					
使用する変換プラグ	ACパワーアダプターのプラグを直接、差し込みます。 主に北米、南米など		主にオーストラリア		主にヨーロッパ



現地のテレビを見るには

NTSC方式の映像、音声入力端子付きテレビが必要です。

再生できるテープは

日本と同じNTSC方式で撮影したものです。

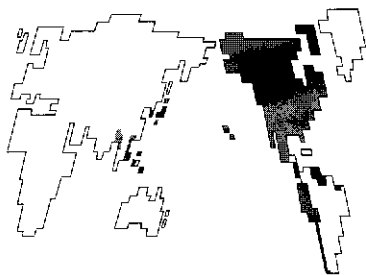


海外で万一故障した場合は

お持ち帰りになった後、お買い上げ販売店にご相談ください。
(外国でのアフターサービスについてはご容赦ください。)

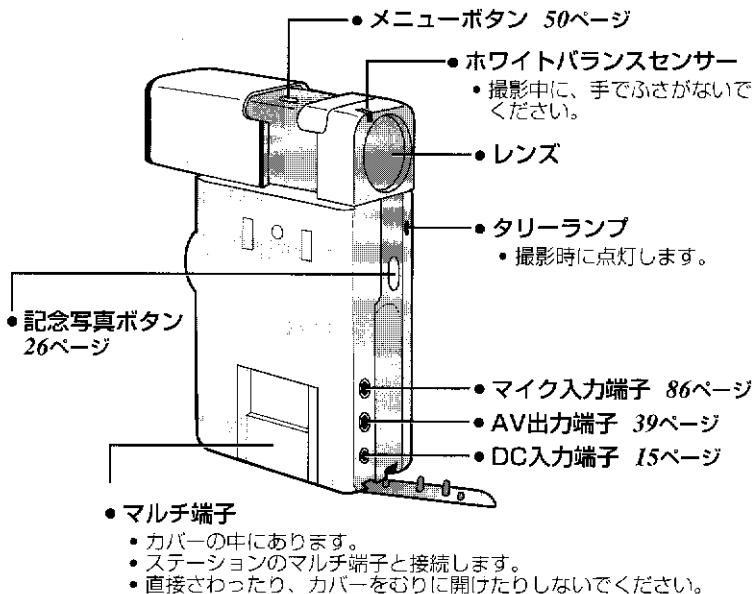
日本と同じNTSC方式の国です。

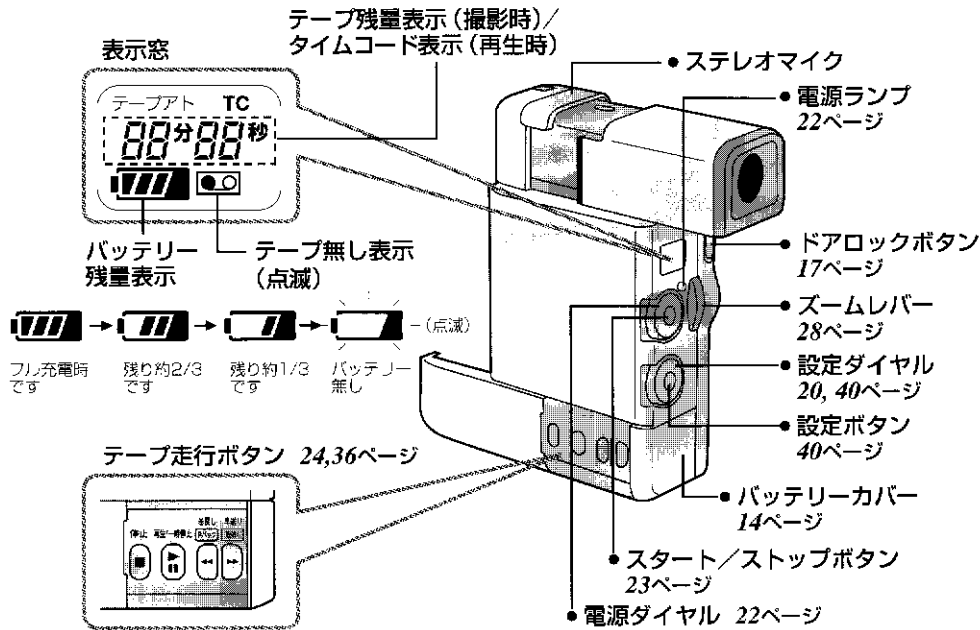
- | | | |
|-------------|----------|----------|
| ● アメリカ合衆国 | ● バミューダ | ● パナマ |
| ● エクアドル | ● プエルトリコ | ● バハマ |
| ● エルサルバドル | ● ベネズエラ | ● バルバドス |
| ● カナダ | ● ペルー | ● ミャンマー |
| ● キューバ | ● 米領サモア | ● ベトナム |
| ● グアム | ● ボリビア | ● フィリピン |
| ● 韓国 | ● グアテマラ | ● ホンジュラス |
| ● チリ | ● コスタリカ | ● ミクロネシア |
| ● ドミニカ | ● コロンビア | ● メキシコ |
| ● トリニダード・トボ | ● スリナム | ● 台湾 |
| ● ニカラグア | ● ハイチ | |



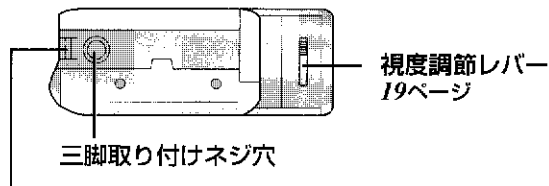
その他

各部のなまえ



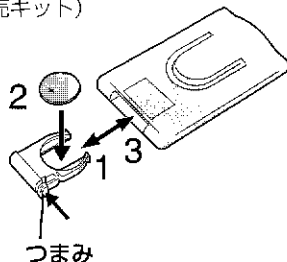


(ムービー底面)



ハンドストラップ取り付け部 18ページ

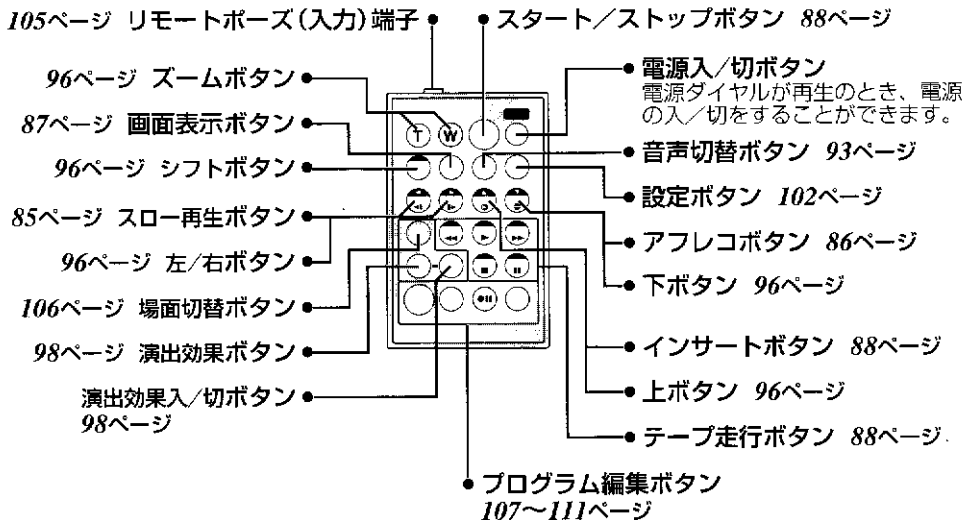
リモコンのボタン電池の取り付け方
(別売キット)



- 1 つまみを矢印方向に押しながら、電池取り付け部を矢印方向に引き出す
- 2 ボタン電池の ⊕ 側を上にし取り付け部にのせる
- 3 取り付け部を矢印方向にカチッと音がするまで差し込む

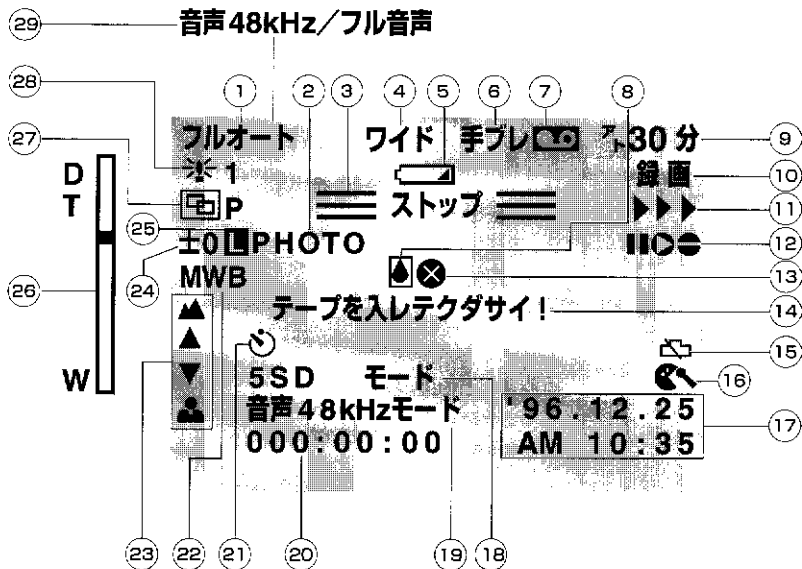
リモコンRM-V708 (別売キット)

●ステーションの受光部に向けて使用してください。



ファインダーの表示 (撮影中・再生中)

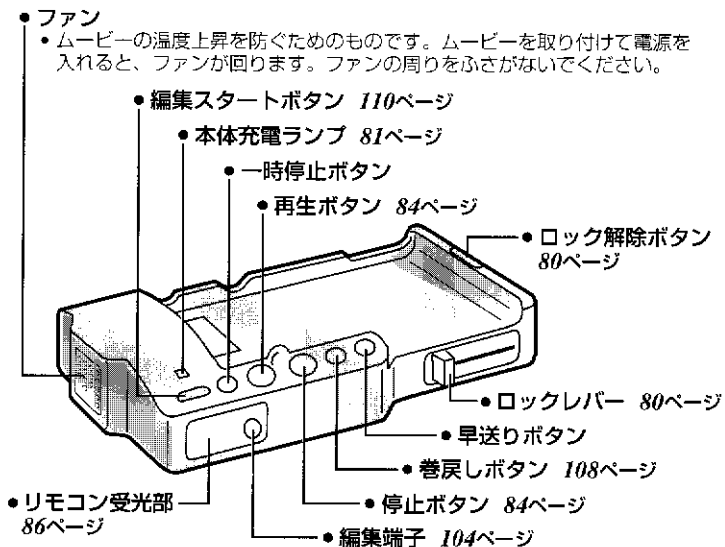
各部のなまえ
(かじり)

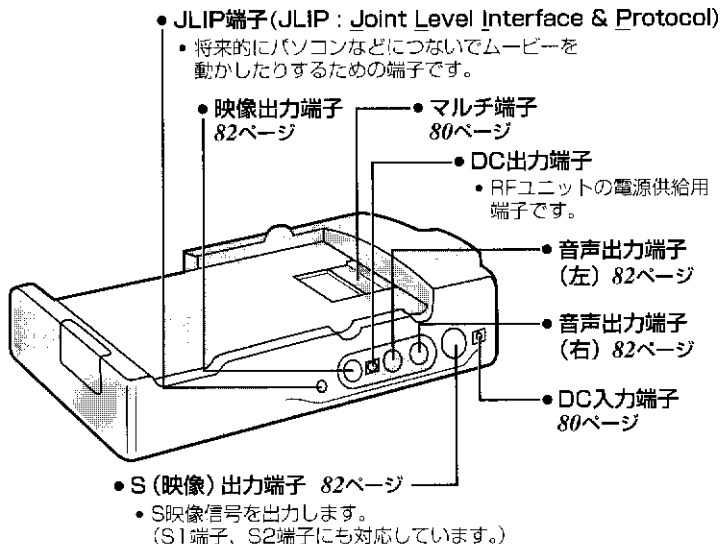


番号	表示名と説明	番号	表示名と説明
①	設定ダイヤル位置表示 20ページ	⑮	ボイスポジション表示 61ページ
②	記念写真表示 26ページ	⑯	日時表示 95,120ページ
③	撮影一時停止表示 23ページ	⑰	シーン撮影表示 30,31,62ページ
④	ワイド表示 53ページ	⑱	音声選択表示 59ページ
⑤	バッテリーアラーム表示 (点滅) バッテリーの充電容量が少なくなっています。	⑳	タイムコード表示 (再生時) 94ページ
⑥	手振れ補正表示 54ページ	㉑	セルフタイマー表示 32ページ
⑦	テープ表示 (点滅) テープが入っていないか、ツメがSAVE側で撮影ができません。	㉒	ホワイトバランス表示 48ページ
⑧	つゆつき表示 (点滅) つゆつきが発生しています。 130ページ	㉓	ピント表示 40ページ
⑨	テープ残量表示 24ページ	㉔	明るさ表示 42ページ
⑩	撮影中表示 23ページ	㉕	アイリス固定表示 44ページ
⑪	テープ走行表示 23ページ	㉖	ズーム表示 28ページ
⑫	インサート/アフレコ表示 86,88ページ	㉗	場面切替表示 64ページ
⑬	ヘッド目づまり表示 (点滅) 録画開始時、ヘッドにゴミ付きが発生すると表示します。 132ページ	㉘	演出効果表示 74ページ
⑭	テープ表示 テープが入っていないときに、電源を入れたとき約15秒表示します。	㉙	再生音声表示 93ページ
⑮	ボタン電池 (時計用) 表示 電池が入っていないか、容量がなくなっています。 117ページ	—	テープオワリ表示 (点滅) 撮影中テープが終わると表示します。 24ページ
		—	E01~07表示 (点滅) 拡大故障を防ぐため、操作ができなくなります。テープを取り出し、バッテリーをはずして数分待ち、表示が消えてからお使いください。表示が消えない場合は、お買い上げ販売店かビクターサービス窓口にご相談ください。

ドッキングステーション（別売キット）

各部のなまえ
(けいじ)





主な仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

デジタルビデオムービー

一般

電源	DC6V (ACアダプター使用時) DC3.6V (バッテリー使用時)
消費電力	6.2W (撮影時/バッテリー使用時)
規格	DV方式 (SD仕様)
信号方式	NTSC日米標準信号
映像信号記録方式	デジタルコンポーネント記録
情報圧縮後の記録速度	映像25 Mbps
デジタル圧縮技術	DCT可変長符号
使用テープ	MiniDV テープ
テープ速度	18.8mm / 秒
録画時間	最大 60分 (DVM-60使用時)
連続撮影時間	約 30分 (バッテリーBN-V712フル充電時)
早送り・巻戻し時間	約100秒 (DVM-60使用時)
撮像素子	1/3インチCCD固体撮像素子 57万画素 (撮像エリア約33万画素)
ズーム倍率	光学ズーム倍率 10倍、総ズーム倍率 100倍 (デジタルズーム使用)
レンズ	F1.6 (f = 4.5~45 mm)
レンズ径 (フィルター径)	27mm
ファインダー	電子ファインダー (0.55型カラー)
最低照度	14lx (ルックス)、7lx (シャッター1/30秒時)
白バランス	自動/手動

アイリス	自動/固定
専用マイク	コンデンサータイプ/ステレオ
許容動作温度	0~40℃
許容相対湿度	35~80%
許容保存湿度	-20~50℃
外形寸法	幅43×高さ148×奥行き88 mm
質量	本体質量 約450g 撮影時質量 約520g (バッテリーBN-V712、テープM-DV30ME、 ハンドストラップ含む)

オーディオ

サンプリング周波数	48kHz、44.1kHz (再生時のみ)、32kHz
チャンネル数	2チャンネル (48kHz) 4チャンネル (32kHz)
量子化ビット数	16bit 直線 (48kHz) 12bit 非直線 (32kHz)

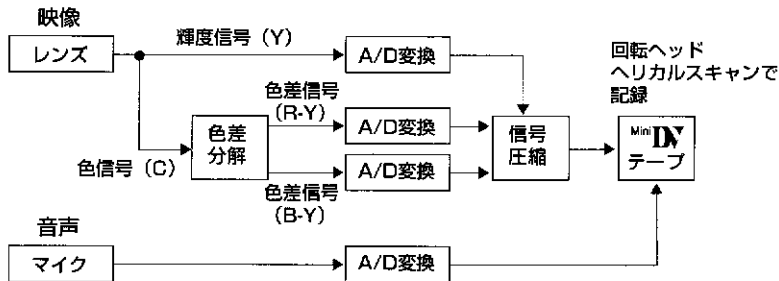
端子部

マイク入力端子	φ3.5 mm -68dBs ステレオ
AV出力端子	φ3.5 mm 4極 (映像:1Vp-p 75Ω、音声:-8dBs 1kΩ) アナログ出力
DC入力端子	6 V
マルチ端子	34ピン

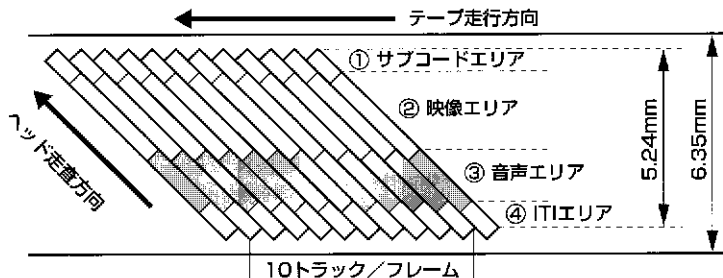
本機では、映像・音声をデジタル信号にしてテープに記録※しています。

- ・映像には、輝度信号 (Y) と色差信号 (R-Y) と (B-Y) に分けてデジタル記録する『デジタルコンポーネント記録方式』を採用しています。
A/D (アナログ信号からデジタル信号への) 変換では、輝度信号 (Y) を 13.5MHz、色差信号 (R-Y) と (B-Y) を 3.375MHz でそれぞれサンプリング (標本化) し、8ビットに量子化します。
- ・音声については、48kHz でサンプリングし 16ビット直線に量子化するものと、32kHz でサンプリングし 12ビット非直線に量子化するものとの、2通りあります。

※テープにはデジタル信号が記録されますが、本機にはデジタル出力端子がありませんのでアナログ信号で出力されます。



DV1では、1つのトラック上に各種の情報が分割され書き込まれます。
テープ上のトラックフォーマットを示します。



① サブコードエリア

タイムコードデータや、日時等を記録しておく部分です。映像とは別の部分に、日時を記録しています。記録時に日時を表示しておかなくても再生時にお好みの場所を出したり消したりすることができます。

② 映像エリア

デジタル化した映像信号を記録します。


③ 音声エリア

デジタル化された音声信号を記録します。

④ ITI (Insert & Tracking Information) エリア

インサートやアフレコのトラッキングの信号が記録されます。

用語解説

アイリス	人間のひとみと同じはたらきをします。人間の目は、光が強いところだとまぶしくてひとみが縮まり、光がたくさん入らないようにします。また反対に、暗いところだとひとみが広がり、光をたくさん入れるようにします。それらを、ムービーで電氣的におこなっています。
色温度	被写体を照明している光には、赤っぽい光や青っぽい光など、さまざまな質の光があります。この光の色合いを示すモノサシを色温度と言います。
ACアダプター	バッテリーを充電するときに使います。また、直接ムービーにつないで電源を供給することができます。
オートフォーカス	初めてムービーを使う人が苦手とするピン・合わせを、自動でおこなう機能です。
オンスクリーン	ファインダー内の表示を、接続したテレビ画面に映すことができます。
コマ落とし	映画初期のころは1秒間当たりのコマ(画)の数が少ないので、現代の映画のようななめらかな動きをしていません。撮影している映像を、映画初期ののような動きにする機能です。
撮影一時停止	スタート/ストップボタンを押せば撮影がスタートする状態のことです。
CCD	人間の目と同じはたらきをします。見た光景を電氣に変えて映像にしています。
視度調節	ファインダー内の表示や映像がハッキリ見えるように、視力に合わせて調節することです。
つゆつき	ムービー内部に温度変化などで水滴が付くことです。ファインダー内に  が表示されると、ムービーは停止します。

デジタルズーム	レンズの性能で拡大した映像（ズームで10倍に拡大した映像）を、デジタル処理で2倍に拡大したものを20倍ズームと言い、10倍にしたものを100倍ズームと言います。
手振れ補正	ムービーを手で持って撮影するとき、動かしていないつもりでも、自然と手がふるえてムービーが動いてしまいがちです。その、比較的小さな画面の揺れを自動的に補正する機能です。
フェード	映像の場面切替に使われるテクニックのひとつです。映画やテレビのように映像がだんだん暗くなって場面が消えていく（暗転になっていく）ことをフェードアウトと言います。また、映像がだんだん明るくなって、場面が現われることをフェードインと言います。
NTSC	テレビ方式のひとつで、日本・アメリカ・カナダ・メキシコ・台湾などがこの方式を採用しています。このほかに、PAL、SECAMの方式があります。
ホワイトバランス	人間の目で見ると同じ色でもムービーで撮ると、照明がロウソクのときと蛍光灯のときとは違った色になります。それを自然な色合いに映るようにする機能です。
ワイプ	映像の場面切替に使われるテクニックのひとつです。映像を拭きとる（拭く=ワイプ）ようにして消えていくことをワイプアウトと言います。また、真っ黒な場面をふきとるようにして次の映像が現われるのをワイプインと言います。

五十音順

- ア** アイリス 44, 150
明るさ合わせ 42
アニメ撮影 62
アフレコ編集 86
アラーム音 61
インサート編集 88
映像ワイプ 68~70
演出効果 74~79, 98
オートフォーカス 40, 150
オンスクリーン 121, 150
音声 59, 93
- カ** 海外で使う 136
記念写真 26
記念写真サーチ 38
誤消去防止 17
5S (5秒撮り) 30
5SD 31
- サ** 撮影一時停止 23, 150
自動編集 102~113
視度調節 19, 150
充電 12, 81
シーン 60
ズーム 28, 55, 96
ステーション 80
ストロボ (撮影) 77
スロー再生 85
接続 82, 104
セルフタイマー撮影 32
- タ** タイムコード 94
ダビング 100
つゆつき 130, 150
デジタルズーム 28, 55, 151
テープについて 17, 134, 135
テープを入れる 16
手振れ補正 54, 151
テレビで見る 39, 82~85
電源 (コンセントで) 15
(バッテリー) 14
撮る姿勢 25

ナ 日時合わせ 118
 日時表示 95, 120

ハ バッテリー 3, 14, 134, 135
 バッテリーアラーム 143
 場面切替 64~ 71
 ピント合わせ 40
 ファインダー内表示 142
 ファインダーのピント合わせ 19
 フェードイン/アウト 64~ 71, 151
 ヘッド汚れ 132
 編集 100~ 115
 ボタン電池 3, 116, 140
 ホワイトバランス 46~ 49, 151
 本体内充電 81

マ メーカー設定 102

ラ リモコン 86~ 113, 140
 レコバック 24
 録画方式 4

ワ ワイド 53
 ワイプイン/アウト 64~ 71, 151

ACアダプター 12, 80, 150
 CCD 146, 150
 IDナンバー 58
 JLIP 145
 Rバック 24
 RFユニット(別売) 83
 NTSC 136, 151

保証書 別途添付しています。

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みの後大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、ムービーの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは（持込修理）

122～127ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、接続機器の電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

万一本機およびデジタルビデオカセット等の不具合により、正常に録画・録音や再生できなかった場合の内容の補償については、ご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店にて修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	デジタルビデオムービー
型名	GR-DV1
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	
お名前	
電話番号	

愛情点検

🌀長年ご使用のムービーの点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。



このような
症状は
ありませんか

- 再生しても映像や音声が出ない。
- 異常な臭いや音がある。
- 水や異物が入った。
- その他の異常や故障がある。



ご使用
を
中 止

故障や事故防止のため、
電源を切り、必ず販売店
に点検をご相談ください。

その他

故障かな?と思ったら

修理に出す前に122~127ページをご確認ください。

修理についてのご相談は

「お買い上げ販売店」へご相談ください。

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、別紙「サービス窓口案内」にご相談ください。

お買物相談

お取り扱い方法、お手入れ方法その他ご不明な点は「お客様ご相談センター」にご相談ください。

お客様ご相談センター

東 京	大 阪
☎ (03)5684-9311	☎ (06)765-4161
〒113 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル	〒543 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

 Victor

 JVC

日本ビクター株式会社

ビデオ事業部

〒221 横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地

電話 (045) 450-2550